

I. 沿革



明治34年 (1901)		大倉美術館 竣工
明治35年 (1902)	1月頃	大倉美術館 徐々に観覧に供す
明治36年 (1903)	6月14日	大倉美術館 開会式
大正6年 (1917)	8月15日	財団法人 大倉集古館 設立
	8月30日	財団法人 大倉集古館 文部省認可
大正7年 (1918)	5月 1日	財団法人 大倉集古館 開会式
大正12年 (1923)	9月 1日	関東大震災により建物倒壊
大正15年 (1926)	1月20日	再建工事着工 (伊東忠太設計、大倉土木株式会社施工)
昭和2年 (1927)	11月 2日	大倉集古館 竣工
昭和3年 (1928)	4月22日	創設者 大倉喜八郎 逝去
	10月23日	大倉集古館 再開館
昭和28年 (1953)	4月20日	東京都教育委員会に、博物館法第12条により博物館登録 (第6号)
昭和34年 (1959)	9月25日	東京都教育委員会の基本財産の一部処分承認を得て、大成観光株式会社 (ホテルオークラ) と土地売買契約を締結し、建物改修計画に着手
昭和35年 (1960)	1月～	収蔵庫、事務所新築のため休館
	12月13日	財団法人大倉文化財団と改称。館の名称を大倉集古館とする
昭和36年 (1961)	4月10日	収蔵庫並びに事務所竣工
	4月～	陳列館改装、庭園整備、屋外展示品の配列替え工事を行う
昭和37年 (1962)	5月11日	大改修工事完了し、創設45周年記念式典を兼ね、開館式典を行う
昭和38年 (1963)	2月 2日	理事長 大倉喜七郎 逝去
平成2年 (1990)	1月16日	大倉集古館陳列館 東京都選定歴史的建造物となる
平成9年 (1997)	3月10日～	陳列館・収蔵庫改修工事のため休館 (小杉英男建築研究室設計、大成建設施工)
	10月 1日	リニューアルオープン
平成10年 (1998)	9月 2日	大倉集古館陳列館 文化財登録原簿に登録される (登録有形文化財)
平成11年 (1999)	4月 5日	「私立美術館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準」(平成9年文部省告示第54号) 第2条に規定する(望ましい基準)を満たしていると認定される
平成12年 (2000)	5月 1日	東京都教育委員会より「特定公益増進法人」に認定される
平成14年 (2002)	11月5日～	収蔵庫改修工事のため休館
	15年4月25日	
平成23年 (2011)	4月 1日	東京都より公益財団法人と認定され、公益財団法人大倉文化財団となる
平成26年 (2014)	3月31日～	増改築工事のため休館
令和元年 (2019)	9月12日～	リニューアルオープン

II. 事業報告

1. 2019年リニューアル概要

大倉集古館は明治から大正時代にかけて活躍した実業家・大倉喜八郎(1837～1928)が、大正6年(1917)に自邸の敷地内に設立した日本で最初の財団法人の私立美術館である。大正12年(1923)の関東大震災では、防火設備の水道が断線し、発生した火災によって陳列館と展示中の多くの作品を失った。しかし倉庫内にあって火災を免れ、あるいは猛火の中を搬出された普賢菩薩騎象像などの作品をもとに、伊東忠太博士の設計による耐震耐火の陳列館を建築して、昭和3年(1928)10月再び開館した。RC造2階建て、施工は大倉土木(現在の大成建設)で、屋根に反りをもった独特な中国風建築は、現在、国の登録有形文化財となっている。その後、数度の改修を経て、平成26年(2014)4月に増改築工事に着手し、嫡子の喜七郎(1882～1963)が設立したホテルオークラ東京本館の特徴である日本の伝統美を継承した「The Okura Tokyo」の開業と同時の令和元年(2019)9月12日にリニューアルオープンした。

リニューアルに至る経緯

大倉集古館の工事は、谷口建築設計研究所の設計、大成建設の施工により、The Okura Tokyo と一体的な建設で周辺地域の活性化をめざす再開発事業として行われた。建物の外観はリニューアル前後でほとんど変わらないが、その工事には最新の設計思想と建築技術が駆使された。大きな水盤を中心に41階建ての「オークラプレステージタワー」と17階建ての「オークラヘリテージウイング」そして大倉集古館で構成される「オークラ・スクエア」及び周辺の緑地は、虎ノ門のランドマークとしてだけでなく、界隈の防災拠点としての役割も担っており、新たな名所として生まれ変わった。

増改築工事の内容

増改築工事では、大倉集古館を取り囲むように建っていた収蔵庫(昭和37年(1962)建設)を取り壊し、地上2階建ての既存建物(建物総重量約3,000トン)を約6m曳家した。曳家後、既存建物を空中に保持した状態で新たに地下1階を増築し、建物全体を免震化している。地下に新設された収蔵庫は、耐火金庫扉やコンクリートなどで何重にも保護されている。登録文化財としての外観保全を目的に、既存の銅板屋根は一度生かし取りし、新規銅板を葺いた上に既存銅板を戻すという前例のない手法で保存・再利用された。室内の石膏細工の補修には、三次元レーザーキャナと3Dプリンターを用いた。新たに設計されたドイツ製の展示ケースは、気密性能に優れ、来館者の作品鑑賞に配慮した超高透過・低反射ガラスが用いられ、作品の保存、活用を目指す大倉集古館にふさわしい仕様となっている。建物は現行の建築基準法に適合させ、バリアフリー化のためにエレベーターを新設、利用者にも収蔵品にも安心できる環境を構築した。

設計者谷口吉生先生

増改築工事の設計をお願いした谷口吉生先生は、世界的に著名な建築家で、ニューヨーク近代美術館新館(MOMA)や、京都国立博物館新館「平成知新館」、東京国立博物館「法隆寺宝物館」などの設計で知られる。先生の父上・谷口吉郎先生(1904～1979)も東宮御所、帝国劇場を設計した建築家で、東京帝国大学(現、東京大学)在学中に昭和2年竣工の大倉集古館の設計者伊東忠太博士(1867～1954)の指導を受け、伊東博士が谷口吉郎先生にドイツ留学の機会を与えたという。後に谷口吉郎先生はホテルオークラ東京の設計を行う。このような経緯から、谷口吉生先生は大倉集古館の増改築工事を設計することになり、強い思い入れを持って増改築工事に取り組まれた。

(学芸部長 高橋裕次)

竣工式・感謝状贈呈式



竣工式



感謝状贈呈式



2. 展覧会事業・普及事業

令和元年度(1)

大倉集古館リニューアル記念特別展 桃源郷展—蕪村・呉春が夢見たもの— 開館記念 大倉集古館名品展

会 期：令和元年9月12日(木)～11月17日(日)
前期：9月12日(木)～10月14日(日)
後期：10月16日(水)～11月17日(日)
※9月6日(金)は開会式・特別内覧会・レセプションパーティー開催
※台風19号上陸により10月12日(土)、13日(日)は休館

開館時間：10時～17時

開催日数：58日間

入場者数：16,036人(1日平均約276人)

観 覧 料：一般 1,300円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料

会 場：大倉集古館 1階展示室(大倉集古館名品展)、2階展示室(桃源郷展)

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協 力：株式会社ホテルオークラ東京、特種東海製紙株式会社、大成建設株式会社

広 報 物：ポスター(B2)、先行チラシ(A4)、本チラシ(A3)(デザイン：田中麻子(uNdercurent. Co., Ltd.))

図 録：本文112頁(29.3×22.6cm)

編集 田中知佐子(主任学芸員)

デザイン 田中麻子(uNdercurent. Co., Ltd.)

印刷 ニューカラー印刷株式会社

配付資料：「桃源郷展作品リスト」、「大倉集古館名品展作品リスト」

担 当：田中知佐子(主任学芸員)

「桃源郷展」展示趣旨：

本展では、新収品の呉春筆「武陵桃源図屏風」(江戸時代・18世紀)を本邦初公開し、本作品の創作の原点となった呉春の師・与謝蕪村の筆になる一連の桃源郷作品へのオマージュ、そして呉春自身の画業における本作品の位置づけに着目しました。これらに関連の深い作品の展覧を通じて、蕪村が中国文化に向けた詩情や桃源郷への憧れが呉春に受け継がれ、やがては独自の様式の中に昇華される軌跡を辿りました。

展示構成：

- 第一章 呉春「武陵桃源図屏風」—蕪村へのオマージュ—
- 第二章 桃の意味するもの—不老長寿・吉祥—
- 第三章 「武陵桃源図」の展開—中国から日本へ—

「大倉集古館名品展」展示趣旨：

1F展示室にて、当館を代表する名品の数々を展示



本チラシ



図録表紙



「桃源郷展」展示風景



「大倉集古館名品展」展示風景



関連イベント

①開会式・特別内覧会・レセプションパーティー

日 時：令和元年9月6日(金)18時～20時
参加者：685人

②プロガーナイト

日 時：令和元年9月8日(日)18時から
解 説：安村敏信(学芸部顧問)、田中知佐子(主任学芸員)
参加人数：11人

③AKR Hills Music Week 2019 「オークラウロと和の宴」

日 時：令和元年10月6日(日)14時30分開演
出 演：小湊昭尚(オークラウロ)、小山豊(津軽三味線)、丸山力巨(ギター)
場 所：大倉集古館 地下1階ホール
料 金：2,000円(展覧会料金含む)
参加人数：74人

④「桃源郷展」開催特別講演会「呉春の写生画―蕪村の南画と応挙の写生画をめぐって―」

日 時：令和元年10月27日(日)14時開演
※台風19号により10月12日(土)から変更
講 師：冷泉為人(冷泉家25代当主、京都美術工芸大学長)
場 所：大倉集古館 地下1階ホール
料 金：無料
参加人数：57人



①開会式



③オークラウロと和の宴



④特別講演会

「桃源郷展」作品リスト

第一章 呉春「武陵桃源図屏風」―蕪村へのオマージュ―

No.	作品名	作者等	時代	所蔵	展示期間
1	桃林結義図	与謝蕪村	江戸・明和8年(1771)	岡田美術館	前期
2	武陵桃源図	与謝蕪村	江戸・明和9年(1772)頃	個人蔵	全
3	武陵桃源図	与謝蕪村	江戸・安永10年(1781)	個人蔵	全
4	武陵桃源図	与謝蕪村	江戸・天明元年(1781)	角屋保存会	前期
5	春夜桃李園図	与謝蕪村	江戸・天明2年(1782)	個人蔵	後期
6	桃園結義図	呉春	江戸・安永8～10年(1779～81)頃	公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館	後期 全
7	柳陰帰漁図屏風	呉春	江戸・天明3年(1783)	静岡県立美術館	全
8	武陵桃源図	呉春	江戸・天明4～5年(1784～5)頃	公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館	全 全
9	陶淵明画賛	与謝蕪村・呉春	江戸・天明4年(1784)	公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館	全
10	武陵桃源図屏風	呉春	江戸・天明4～5年(1784～5)頃	大倉集古館	全
11	重要美術品 武陵桃源図巻	呉春	江戸・寛政8～10年(1796～8)頃	遠山記念館	全

第二章 桃の意味するもの ―不老長寿・吉祥―

No.	作品名	作者等	時代	所蔵	展示期間
12	鶴桃図	(伝)明・呂紀	清・17世紀	林原美術館	全
13	鶴桃図	沈南蘋	清・乾隆15年(1750)	個人蔵	後期
14	双寿図	沈南蘋	清・乾隆年間(1736～95)	個人蔵	全
15	仙桃堆朱盆	「大明嘉靖年製」銘	明・嘉靖年間(1522～66)	東京国立博物館	全
16	山水人物堆朱桃形角鉢	「大清乾隆年製」銘	清・乾隆年間(1736～95)	東京国立博物館	全
17	粉彩瑞果文鉢	「大明嘉靖年製」銘・ 景德鎮窯	明・嘉靖年間(1522～66)	東京国立博物館	全
18	青花黄彩桃文皿	「大清乾隆年製」銘・ 景德鎮窯	清・乾隆年間(1736～95)	東京国立博物館	全
19	粉彩瑞果文碗	「大清乾隆年製」銘・ 景德鎮窯	清・乾隆年間(1736～95)	静嘉堂文庫美術館	全
20	藍釉粉彩桃樹文瓶	景德鎮窯	清・18世紀	静嘉堂文庫美術館	全

第三章 「武陵桃源図」の展開 ―中国から日本へ―

No.	作品名	作者等	時代	所蔵	展示期間
21	武陵桃源図巻	南宋・張伯駒(款)	清末～清初・17世紀	林原美術館	全
22	桃源図	張保振	明・15世紀	個人蔵	全
23	武陵桃源図	谷文晁	江戸・文化元年(1804)	個人蔵	全
24	青緑桃源図	山本梅逸	江戸・弘化3年(1846)	遠山記念館	全
25	武陵桃源図	中島来章	江戸・19世紀	三井記念美術館	後期
26	武陵桃源図屏風	岡本豊彦	江戸・18～19世紀	静岡県立美術館	後期
27	武陵桃源図屏風	河村文鳳	江戸・19世紀	静岡県立美術館	前期
28	武陵桃源図	富岡鉄斎	明治24年(1891)	光明寺	全
29	染付桃源僊居図水指	南紀男山焼	江戸・19世紀	三井記念美術館	全

出品数：29件

「大倉集古館名品展」作品リスト

No.	指定	作品名	作者等	時代	展示期間
1		能装束紅地紗綾形打板模様厚板		江戸時代・18世紀	前期
2		能装束鬱金地垣夕顔模様縫箔		江戸時代・18世紀	前期
3		狂言面 姫	「辰右衛門」金泥書	室町～江戸時代・16～17世紀	全
4	重美	五節句図	酒井抱一	江戸時代・文政10年(1827)	後期
5	重美	扇面流図屏風	宗達派	江戸時代・17世紀	前期
6	重美	山水蒔絵書棚		江戸時代・18世紀	後期
7	国宝	古今和歌集序	藤原定実	平安時代・12世紀	前期
8	国宝	隨身庭騎絵巻		鎌倉時代・13世紀	後期
9	重文	鏤絵寿老図六角皿	尾形光琳・乾山	江戸時代・17世紀	前期
10	重文	長生殿蒔絵手箱		鎌倉時代・13～14世紀	後期
11		夜桜	横山大観	昭和4年(1929)	全
12	重文	一字金輪像		鎌倉時代・13世紀	前期
13	重文	石清水八幡曼荼羅図		鎌倉時代・13世紀	前期
14	重美	愛染明王像		鎌倉時代・14世紀	後期
15	重美	聖徳太子勝鬘経講讃図		鎌倉時代・14世紀	後期
16	国宝	普賢菩薩騎象像		平安時代・12世紀	全
17		鯉魚	速水御舟	昭和4年(1929)	前期
18		木菟図	小林古径	昭和4年(1929)	前期
19		不動尊	下村観山	大正14年(1925)	前期
20	重文	洞窟の頼朝	前田青邨	昭和4年(1929)	後期

出品数：20件

令和元年度(2)
新春特集展示 能と吉祥 寿—Kotohogi—

会 期：令和元年12月24日(火)～令和2年1月26日(日)

開館時間：10時～17時

開催日数：26日間

入場者数：5,208人(1日平均約200人)

観 覧 料：一般500円、大学・高校生500円、中学生以下無料

会 場：大倉集古館 1階展示室

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協 力：株式会社ホテルオークラ東京、特種東海製紙株式会社、大成建設株式会社

広 報 物：ポスター(B2)、チラシ(A4)(デザイン：二井美好〔二井デザイン室〕)

配付資料：「作品リスト」、「面打系図」、「松竹梅十種香箱」、「能装束用語解説」

担 当：佐々木智子(学芸員)

展示趣旨：

新年を寿ぎ、松竹梅・宝尽くし・扇といった吉祥文様に注目して、能装束と工芸を中心に、デザインとして吉祥文様のあらわされた作品を展覧いたしました。また能面の名品を通して、「石橋」「狸々」などの、祝言性あふれる能の演目を紹介し、あわせて近年新収蔵品として加わった鈴木守一筆「石橋・牡丹図」(3幅、江戸～明治時代・19世紀)を、当館初公開いたしました。新春のおめでたい雰囲気なか、華やかに満ちた文織と能の世界をお楽しみいただきました。



チラシ





展示風景

作品リスト

No.	指定	作品名	作者等	時代
1		長生殿蒔絵手箱(模造)	溝口 三郎	昭和 12 年 (1937)
2		四君子象嵌重硯箱	木内 半古	昭和 6 年 (1931)
3		紅白段業平菱菊模様唐織		江戸時代・18 世紀
4		紅地梅格子菊模様唐織		江戸時代・18 世紀
5		紅地檜扇菊梅模様縫入長絹		江戸中期・18 世紀
6		松竹梅蒔絵十種香箱		江戸時代・18 世紀
7		牡丹梅菊文輪花堆朱盆		明時代・16 世紀
8		色絵芙蓉手花鳥図大皿	伊万里焼	江戸時代・18 世紀
9		青磁染付宝尽文大皿	鍋島焼	江戸時代・18 世紀
10		能面 増女	「出目洞水」焼印	江戸時代・18 世紀
11		能面 狸々	「出目洞水」黒漆書	江戸時代・18 世紀
12	国宝	普賢菩薩騎象像		平安時代・12 世紀
13		白地青海波八重梅模様縫箔		江戸中期・18 世紀
14		紅地金鱗模様摺箔		江戸時代・19 世紀
15		能面 翁		江戸時代・18 ~ 19 世紀
16		能面 邯鄲男	「出目半蔵」朱漆書	江戸時代・18 世紀
17		白地大竹模様緋切		江戸時代・19 世紀
18		花色地丁子唐草模様袷袢		江戸時代・18 世紀
19		花色地破檜垣笹竜胆模様袷袢		江戸時代・19 世紀
20		赤頭		江戸時代・18 世紀
21		能面 獅子口	「出目李之助」朱漆書	江戸時代・18 世紀
22		石橋・牡丹図	鈴木 守一	江戸~明治時代・19 世紀
23		紅白段市松牡丹鳥模様唐織		江戸時代・18 世紀

出品数：23 件

関連イベント

①第 17 回 大倉集古館オペラの夕べ

ブッチェニ「ラ・ボエーム」より

日時：令和 2 年 1 月 18 日(土) 19 時開演

出演：ミミ…天羽明恵、ロドルフォ…又吉秀樹

ムゼッタ…小寺彩音、マルチェロ…石井基幾

古藤田みゆき(ピアノ)

担当：田中知佐子(主任学芸員)

場所：大倉集古館 地下 1 階ロビー

料金：3,500 円(観覧会料金含む)

参加人数：115 人



令和2年度(1)

企画展 彩られた紙 ー料紙装飾の世界ー

※新型コロナウイルス感染症対策のため延期

会 期：令和2年4月4日(土)～5月24日(日)

前期：4月4日(土)～4月26日(日)

後期：4月28日(火)～5月24日(日)

開館時間：10時～17時

開催日数：44日間(当初予定)

観 覧 料：一般 1,000 円、大学・高校生 800 円、中学生以下
無料

会 場：大倉集古館 1階・2階展示室

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協 力：特種東海製紙株式会社

広 報 物：ポスター(B2)、チラシ(A4)(デザイン：石島章輝〔イ
ンジマデザイン制作室〕)

担 当：高橋裕次(学芸部長)

展示趣旨：

「彩られた紙」とは、美しく染めた色紙や、下絵を描き金や銀を蒔く
など、華やかに装飾された紙のことです。文字を描くために表面を
硬いもので擦ったり、叩いて滑らかに書こうとした紙もあります。そ
れぞれの料紙を顕微鏡や斜光線などを用いて観察すると、繊維の
形状や配向性、表面の凹凸、添加物の有無などから、その特性や、装
飾の技法を明らかにすることができます。

たとえば国宝『古今和歌集序』の料紙は、竹の繊維を原料とし、表面
に布目を付けた上に、さまざまな色の胡粉を塗り、雲母摺りや空摺
りの技法で吉祥文様を表現しています。さらに美しくみえるよう
に色と文様の組み合わせを考えながら自立した卷子に本文を書い
たものです。

本展では、奈良時代の写経から江戸時代の天津絵にいたるまで、
人々の願いや美意識が反映された各時代の料紙装飾に光をあて、
託された祈りや夢、そして美の移り変わりを探ります。

関連イベント

①彩られた紙展ギャラリートーク【中止】

日 時：令和2年4月16日(木)、4月30日(木)、5月14日(木)
各 14時から

担 当：高橋裕次(学芸部長)

場 所：大倉集古館 1階、2階展示室

料 金：無料(要入館券)



チラシ



令和2年度(2)

企画展 日本絵画の隠し玉 ～大倉コレクションの意外な一面～

※新型コロナウイルス感染症対策のため会期変更、イベントはすべて中止

会 期：令和2年6月27日(土)～7月26日(日)

※令和2年6月2日(火)～7月26日(日)から変更

開館時間：10時30分～16時30分

※10時～17時から変更

開催日数：26日間

入場者数：1,485人(1日平均約57人)

観 覧 料：一般 1,000 円、大学・高校生 800 円、中学生以下
無料

会 場：大倉集古館 1階・2階展示室

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協 力：株式会社ホテルオークラ東京、特種東海製紙株式会社、
大成建設株式会社

広 報 物：ポスター(B2)、チラシ(A4)(デザイン：高見征毅〔浅
野製版所〕)

配付資料：「作品リスト」

担 当：安村敏信(学芸部顧問)

展示趣旨：

大倉コレクションには数々の名品に埋もれて興味深い作品が静か
に再評価を待っています。本展では日本絵画について、その発掘を
してみました。一見珍品や稀少な作品に見えるものを、改めて現代
の価値観で見直すとなかなか面白い作品が浮上します。

「扇而散らし屏風」の片隻の絵師は、今はやりのゆるキャラを得意
とし、その表現は魅力的です。「寒山拾得」の怪異な表現は、劇画を
好む人々に愛されるでしょう。「遊楽人物図屏風」では彦根屏風の
新たな展開がみられます。「虫太平記絵巻」には素直に擬人化され
た虫たちの好演がみられます。

その他、宗教的な背景を持つ素朴な表現の作品や、古典に典拠した
気品に満ちた竹品など、従来の当館のイメージを覆す作品に出会
えることでしょう。



チラシ





展示風景



関連イベント

※※新型コロナウイルス感染症対策のため中止または延期

①開催記念特別講演会【中止】

日 時：令和2年7月4日(土)14時開演
 講 師：安村敏信(学芸部顧問)
 場 所：大倉集古館 地下1階ホール
 料 金：無料(要入館券)

②ギャラリートーク【中止】

日 時：令和2年6月13日(土)、7月18日(土)、各14時から
 担 当：田中知佐子(主任学芸員)
 場 所：大倉集古館
 料 金：無料(要入館券)

③戸室玄ピアノ・リサイタル ～音楽と美術の夕べ～【延期】

日 時：令和2年6月4日(木)19時開演
 出 演：戸室玄(ピアノ)
 場 所：大倉集古館 2階展示室
 料 金：5,000円(カクテルパーティー・観覧会料金含む)

④竹の音 ～尺八の響き～ コンサート【延期】

日 時：令和2年7月11日(土)14時30分開演
 出 演：小濱明人(尺八、一節切)、小湊昭尚(尺八)
 場 所：大倉集古館 地下1階ホール
 料 金：3,500円(観覧会料金含む)

作品リスト

No	指定	作品名	作者等	時代	フロア
1		扇面散らし図屏風		江戸時代・17世紀	2F
2		遊楽人物図屏風		江戸時代・18世紀	
3		虫太平記絵巻		江戸時代・17世紀	
4		観梅図	海北友雪(1598～1677)	江戸時代・17世紀	
5		鳶之細道・隅田川図	狩野洞春(1747～97)	江戸時代・18世紀	
6		通円図	狩野栄信(1775～1828)	江戸時代・19世紀	
7		瀑布之図	塩川文麟(1801～77)	江戸時代・19世紀	
8		百鬼夜行絵巻		江戸時代・18世紀	
9		平家物語扇面散らし屏風		桃山時代・16～17世紀	
10		源氏物語 松風図		江戸時代・18世紀	
11		六歌仙図	小川破笠(1663～1747)	江戸時代・享保19年(1734)	
12		大井川富士山図	英一蝶(1652～1724)	江戸時代・17～18世紀	
13		周茂叔・林和靖図	狩野惟信(1753～1808)	江戸時代・18世紀	
14		寒山拾得図	伝周文	室町時代・15世紀	
15		蛭子和尚龍虎図	曾我二直庵(?～1657～?)	江戸時代・17世紀	
16		繫馬図		桃山時代・16世紀	
17	重文	仏頂尊勝陀羅尼神明仏陀降臨曼陀羅図・山越阿弥陀図	冷泉為恭(1823～64)	江戸・文久3年(1863)	1F
18		空也上人絵伝		室町時代・16世紀	
19		樹下の宮図		江戸時代・17世紀	
20		蛭子図		室町時代・15世紀	
21		鍾馭図	二代葛飾戴斗(生没年不詳)	江戸・文政13年(1830)	
22		遊女と禿図	溪斎英泉(1791～1848)	江戸時代・19世紀	
23		布袋各様図巻	松花堂昭乗(1584～1639)	江戸時代・17世紀	
24a		雑画帖より「仔猫に蛤図」	英一蝶(1652～1724)	江戸時代・18世紀	
24b		雑画帖より「布袋図」	英一蝶(1652～1724)	江戸時代・18世紀	
25		職人尽画帖より「鍛冶師」「研師」		桃山時代・17世紀	
26		かわほり帖より「鹿図」	元久印	桃山時代・16世紀	
27		十六羅漢像	山口雪溪(1644～1732)	江戸時代・17～18世紀	

出品数：27件

令和2年度(3)

1930ローマ展開催90年 近代日本画の華 ～ローマ開催日本美術展覧会を中心に～

会 期：令和2年8月1日(土)～9月27日(日)

前期：8月1日(土)～8月30日(日)

後期：9月1日(火)～9月27日(日)

開館時間：10時30分～16時30分

開催日数：50日間

入場者数：8,444人(1日平均約169人)※イベント含む

観 覧 料：一般 1,000円、大学・高校生 800円、中学生以下 無料

会 場：大倉集古館 1階・2階展示室

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協 力：株式会社ホテルオークラ東京、特種東海製紙株式会社、大成建設株式会社

広 報 物：ポスター (B2)、チラシ (A4) (デザイン：田中麻子 [uNdercurrent. Co., Ltd.])

配付資料：「作品リスト」、「作家解説」

担 当：田中知佐子(主任学芸員)

展示趣旨：

明治以降、横山大観、菱田春草、下村観山らは、日本美術の新たな道を求めた岡倉天心が結成した日本美術院で研鑽を積みつつ、日本画の革新に取り組みました。師の没後大観がその遺志を継いで、対外的な活動を休止していた美術院を大正3年に再興しました。大観のバトロンでもあった大倉喜七郎の全面支援を受けて、昭和5年(1930)にローマで開催された「日本美術展覧会」は[団長を務めた大観を筆頭とする院展(再興日本美術院)系の画家のみならず、川合玉堂、竹内栖鳳ら官展系の画家たちも含む総勢80名が参加した、当時の日本画壇における一大プロジェクトでした。本展では、ローマ展開催90年を記念して、大観、春草ら日本の近代を彩った画家たちの作品を、同展出品作を中心に展観いたしました。

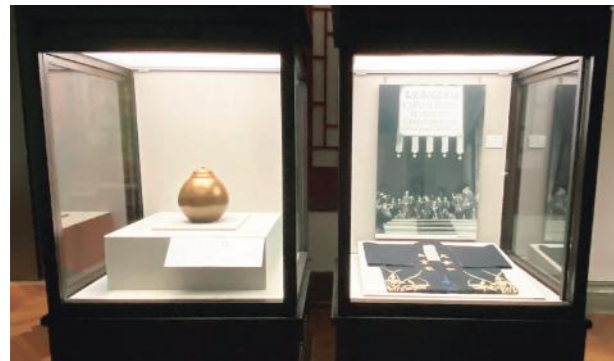
展示構成：

- 第一章 描かれた山景Ⅰ—日本の里山—
- 第二章 描かれた山景Ⅱ—モノクロームによる—
- 第三章 美の競演—花卉・女性—
- 第四章 動物たちの姿—生命の輝き—



チラシ





展示風景

関連イベント

①近代絵画の華展 ギャラリートーク

日 時：令和2年8月19日(水)、9月9日(水)各14時から
 担 当：田中知佐子(主任学芸員)
 場 所：大倉集古館 展示室
 料 金：無料(要入館券)
 参加人数：20人(8/19)、30人(9/9)

②戸室玄ピアノ・リサイタル～音楽と美術の夕べ～

日 時：令和2年9月5日(土)18時30分開演
 出 演：戸室玄
 場 所：大倉集古館 2階展示室
 料 金：3,500円(観覧会料金含む)
 参加人数：59人

③オーケラウロ・コンサート

日 時：令和2年9月19日(土)18時30分開演
 出 演：小湊昭尚(ソプラノ・オーケラウロ)、大河内淳矢(ソ
 プラノ・オーケラウロ)、土屋雄作(ヴァイオリン)、
 丸山力巨(ギター)
 場 所：大倉集古館 1階展示室
 料 金：3,000円
 参加人数：41人



①ギャラリートーク



②戸室玄ピアノ・リサイタル



③オーケラウロ・コンサート

作品リスト

No	作品名	作者等	時代	ローマ展出品	備考	フロア
描かれた山景Ⅰ～日本の里山～						
1	山の湯	児玉素光	大正 15 年 (1926)			1F
2	晩秋	荒木十畝	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
3	暮るる山家	川合玉堂	大正 7 年 (1918)			
4	桂川の秋	穴山勝堂	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
5	秋山懸瀑	川合玉堂邸	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
参考展示						
6	ローマ展開会式		昭和 5 年 (1930)4 月 26 日			1F
7	大倉家法被		昭和 5 年 (1930) ごろ			
8	飾壺	赤塚自得	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
9	ローマ展ポスター	横山大観	昭和 5 年 (1930)			
10	ローマ展図録		昭和 5 年 (1930)			
描かれた山景Ⅱ～モノクロームによる～						
11	高嶺の雲	川合玉堂	明治 43 年 (1910)			2F
12	山水図	橋本雅邦	明治・19 世紀			
13	万里長城図巻	田能村直入	明治・19 世紀			
14	霊峰富士	横山大観	昭和・20 世紀			
15	山四趣	横山大観	大正 14 年 (1925)	ローマ展出品		
美の競演～花卉・女性～						
16	木瓜	山口蓬春	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		2F
17	梅雨あけ	大智勝観	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
18	さやえんどう	並木瑞穂	大正 15 年 (1926)			
19	鏡	三木翠山	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
20	小雨	伊東深水	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
21	七夕	鍋島清方	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品	展示期間 :8/1 ~ 8/30	
22	夜桜	横山大観	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品	展示期間 :9/1 ~ 9/27	
参考展示						
23	松に燕文皿	大倉喜七郎	昭和・20 世紀			2F
24	煮梅花図	川合玉堂	昭和・20 世紀			
動物たちの姿～生命の輝き～						
25	蹴合	竹内栖鳳	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		1F
26	淀の水車	宇田荻邨	大正 15 年 (1926)	ローマ展出品		
27	暖日	橋本関雪	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
28	猿猴図	橋本関雪	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
29	さつき	菱田春草	明治 39 年 (1906)			
30	かけす	菱田春草	明治 43 年 (1910)		個人蔵 (大倉集古館寄託)	
31	桃に鳩の図	橋本静水	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
32	木菟図	小林古径	昭和 4 年 (1929)	ローマ展出品		
参考展示						
33	ローマ展会場写真		昭和 5 年 (1930)4 月 26 日～30 日			1F

出品数 : 33 件

令和2年度 (4)

東京経済大学120周年記念展示 東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎

会 期 : 令和 2 年 10 月 3 日 (土) ~ 10 月 25 日 (日)

開館時間 : 10 時 30 分 ~ 16 時 30 分

開催日数 : 20 日間

入場者数 : 1,904 人 (1 日平均約 95 人)

観 覧 料 : 一般 1,000 円、大学・高校生 800 円、中学生以下
無料

会 場 : 大倉集古館 1 階・2 階展示室、地下 1 階ホール

主 催 : 東京経済大学

特別協力 : 公益財団法人 大倉文化財団

協 力 : 大成建設株式会社、中央建物株式会社、特種東海製紙
株式会社、株式会社ニッピ、株式会社ホテルオークラ

広 報 物 : ポスター (B2)、チラシ (A4) (デザイン : 石島章輝 (イ
シジマデザイン制作室))

小 冊 子 : 本文 20 頁 (21.0×14.8cm)

編集・執筆 : 田辺可奈 (東京経済大学)

発行 : 東京経済大学

デザイン : 石島章輝 (イシジマデザイン制作室)

印刷 : 株式会社アイワード

配付資料 : 「作品リスト」

担 当 : 田辺可奈 (東京経済大学)、佐々木智子 (学芸員)

展示趣旨 :

東京経済大学は本年、創立 120 周年を迎えました。

1900 (明治 33) 年 9 月、実業家大倉喜八郎の意思により、大倉商業学校がこの赤坂葵町の地に開校しました。以来、1920 (大正 9) 年には大倉高等商業学校へ昇格し、1944 (昭和 19) 年に大倉経済専門学校と校名を変更、そして 1949 (昭和 24) 年、新制の東京経済大学となりました。

本展では、第Ⅰ部「大倉喜八郎、その生涯と事蹟」、第Ⅱ部「大倉商業学校から東京経済大学へー記録と記憶でつづる 120 年ー」と題して、その歴史をたどりました。

第Ⅰ部では、創立者大倉喜八郎の人生とその事蹟について、ベンチャ精神や海外への広い視野といった、本学の建学の精神に通じる喜八郎の信念や多彩な活動をふまえて紹介しました。

第Ⅱ部では、学生の日記や聞き取り調査などから分かる個々の視点で見た学生の変化を交えつつ、それぞれの時代の学生の生活を中心に、本学の歴史を振り返りました。

展示構成 :

第Ⅰ部 大倉喜八郎、その生涯と事蹟

・喜八郎 出立する

・喜八郎 起業する

・文化愛好家として

第Ⅱ部 大倉商業学校から東京経済大学へダツシユ記録と記憶
でつづる 120 年ー

・大倉商業学校の設立ー東京経済大学のはじまりー

・大倉高等商業学校の時代

・戦時下の学校

・大学の発展とゼミ活動

・社会科学系総合大学への道



チラシ



小冊子表紙

関連イベント



展示風景



映像コーナー



①第1回 特別解説会「大倉喜八郎の商業学校創立への思いと創立をめぐって」

日時：令和2年10月10日(土)14時から
 講師：村上勝彦(東京経済大学名誉教授・公益財団法人大倉文化財団理事長)
 場所：大倉集古館 地下1階ホール
 料金：無料(要入館券)
 参加人数：50人



①第1回特別解説会

②第2回 特別解説会「『大倉の夜学』と卒業生」

日時：令和2年10月17日(土)14時から
 講師：米山高生(東京経済大学図書館長・経営学部教授)
 場所：大倉集古館 地下1階ホール
 料金：無料(要入館券)
 参加人数：30人



②第2回特別解説会

③ギャラリートーク

日時：令和2年10月9日(金)、10月16日(金)各14時から
 担当：田辺可奈(東京経済大学)
 料金：無料(要入館券)
 参加人数：5人(10/9)、30人(10/16)



③ギャラリートーク

④Ark Hills Music Week 2020

「オークラウロと和の宴 ～民謡を楽しむ～」
 日時：令和2年10月4日(日)18時開演
 出演：小湊昭尚(オークラウロ・尺八)、小山豊(津軽三味線)、小湊笙子(唄)
 担当：田中知佐子(主任学芸員)
 場所：大倉集古館 1階展示室
 料金：3,000円(観覧会料金含む)
 参加人数：26人



④オークラウロと和の宴

⑤「竹の音 ～尺八の響き～ コンサート」

日時：令和2年10月13日(火)18時開演
 出演：小湊明人(尺八、一節切)、小湊昭尚(尺八)
 担当：田中知佐子(主任学芸員)
 場所：大倉集古館 地下1階ロビー
 料金：3,000円(観覧会料金含む)
 参加人数：18人



⑤竹の音

作品リスト

No.	作品名	作者等	時代	所蔵
第1部 大倉喜八郎、その生涯と業績				
1	大倉鶴彦翁夫妻像	高村光雲、高村光太郎合作	1927(昭和2)年	大倉集古館蔵
1. 喜八郎 出立する				
1-1. 新発田から江戸へ				
2	丹羽伯弘 自画自賛	丹羽伯弘	1842(天保13)年	新発田市立歴史図書館蔵
3	積善堂塾則	丹羽伯弘	1824(文政7)年3月27日	新発田市立歴史図書館蔵
4	木牌		江戸時代後期~大正時代	新発田市立歴史図書館蔵
5	『傳習録』上・中・下巻	明王陽明、南部保城編	1910(明治43)年	東京経済大学蔵
6	御出京の動機			鈴木英介氏蔵
1-2. 乾物店の開店と鉄砲商への転身				
7	『心学先哲叢集』	大倉喜八郎	1860(万延元)年	東京経済大学蔵
8	『狂歌扶桑名所名物集』上野国	檜園梅明選	1859(安政6)年	東京経済大学蔵
9	『狂歌扶桑名所名物集』武蔵国	檜園梅明選	1859(安政6)年	東京経済大学蔵
10	『狂歌弓張月』上・下巻	絵馬屋選	1861(文久元)年	東京経済大学蔵
11	瑞西九十番スーベル君借用金証書		1871(明治4)年11月17日	新発田市立歴史図書館蔵
12	米預手形事		1871(明治4)年11月17日	新発田市立歴史図書館蔵
13	大倉組銃砲店広告		1892(明治25)年10月	東京経済大学蔵
14	わたりきし 浮世の橋のあと見れば 命にかえて あやふかりけり	大倉喜八郎	1920(大正9)年	大倉集古館蔵
2. 喜八郎 起業する				
2-1. 大倉組商会の設立				
15	大倉喜八郎ヨリ千里丸積入物品調査上申		1874(明治7)年7月	国立公文書館蔵
16	蕃地必需物件大倉喜八郎笠野熊吉下命ノ儀		1874(明治7)年7月	国立公文書館蔵
17	開物成務	伊藤博文	1896(明治29)年6月	大成建設蔵 展示期間：10/3~11
18	大倉組土木株式会社印はんてん		1924(大正13)~1946(昭和21)年	大成建設蔵 展示期間：10/13~25
2-2. 海外への事業展開				
19	寺島宗則宛上野景範書簡		1872(明治5)年6月29日	国立国会図書館憲政資料室(寺島宗則関係文書)蔵
20	倫敦支店支配人辞令書	合名会社大倉組	1898(明治31)年4月9日	東京経済大学蔵
21	倫敦支店支配人手当証明書		1898(明治31)年4月9日	東京経済大学蔵
22	ロンドン支店支配人門野重九郎への命令書	大倉喜八郎	1898(明治31)年4月9日	東京経済大学蔵
23	釜山浦に大市開設許可願(大倉喜八郎外8名)	大蔵省	1877(明治10)年6月	国立公文書館蔵
24	井上馨宛大倉喜八郎書簡		1895(明治28)年3月7日	国立国会図書館憲政資料室(井上馨関係文書)蔵
25	門野重九郎宛大倉喜八郎自筆書翰		1919(大正8)年10月21日	大倉集古館蔵
2-3. ベンチャー精神と事業の多角化				
26	札幌麦酒醸造場払下げ命令書		1886(明治19)年11月30日	国立公文書館蔵
27	「大倉組札幌ビール醸造場図」		1886(明治19)年頃	サッポロビール博物館蔵
28	麦酒醸造場引継目録		1886(明治19)年12月1日	サッポロビール博物館蔵
29	麦酒貯蔵用氷伐採の儀について		1886(明治19)年12月19日	サッポロビール博物館蔵
30	約定書【複製】		1887(明治20)年12月24日	サッポロビール博物館蔵
31	大倉組時代のラベル【複製】		1886(明治19)年頃	サッポロビール博物館蔵
32	札幌麦酒株券		1899(明治32)年12月1日	サッポロビール博物館蔵
33	銀座通りの電気燈	歌川重清	1883(明治16)年	電気史料館蔵
34	重役俸給支払帳		1907(明治40)年6月	株式会社ニッピ蔵(東京経済大学寄託)
35	献立(大倉組五社新年宴会晩餐会)		1930(昭和5)年1月10日	東京経済大学蔵
36	祇園郭模型	坂本甚太郎	1928(昭和3)年ころ	大倉集古館蔵

No.	作品名	作者等	時代	所蔵
3. 文化愛好家として				
3-1. 美術収集家・大倉集古館の設立				
37	大倉邸之図(創立当初の大倉邸及び大倉集古館)		1902(明治35)年	大倉集古館蔵
38	大倉邸美術館内之図(創立当初の大倉集古館内装)		1902(明治35)年	大倉集古館蔵
39	萩に虫蝶細象嵌火鉢		1897~1898(明治30~31)年	大倉集古館蔵
40	鶴彦翁愛用煙草入・煙管		大正時代	大倉集古館蔵
41	盤龍石硯		2~3世紀(中国・後漢時代)	大倉集古館蔵
42	海上日の出図	徳川家慶	江戸時代後期	大倉集古館蔵
43	《海上日の出図》由緒書き	大倉喜八郎	1894(明治27)年3月	大倉集古館蔵
3-2. 日中の文化交流 ― 梅蘭芳への支援 ―				
44	『梅蘭芳上演曲本梗概』		1919(大正8)年	早稲田大学演劇博物館蔵
45	大正8年5月狂言 番組		1919(大正8)年	早稲田大学演劇博物館蔵
46	『支那劇と梅蘭芳』	村田烏江	1919(大正8)年	早稲田大学演劇博物館蔵
47	大正13年帝国劇場 番組		1924(大正13)年	早稲田大学演劇博物館蔵
48	大倉男爵米寿祝賀会余興「一中節源氏十二段 筋書」		1924(大正13)年10月	早稲田大学演劇博物館蔵
49	斎藤実宛大倉喜八郎書簡(米寿記念の詩文書墨贈呈)		1925(大正14)年9月7日	国立国会図書館憲政資料室(斎藤実関係文書)蔵
50	米寿金婚記念の銀時計	服部時計店	1924(大正13)年	東京経済大学蔵
3-3. 狂歌				
51	鶴彦翁(大倉喜八郎)印	蘆野楠山、天池居士瀧ほか	1925(大正14)~1928(昭和3)年頃	大倉集古館蔵
52	『鶴乃とも』	田辺浩編	1916(大正5)年2月4日	東京経済大学蔵
53	大業ハなせぬものなり小事とて 遊るかせにしてかへり見ぬ人	鶴彦(大倉喜八郎)	1927(昭和2)年頃	東京経済大学蔵
4. 喜八郎が遺したモノ				
4-1. 描かれた喜八郎				
54	教育立身画之三「大倉喜八郎の豪胆」	中嶋石松	1902(明治35)年	国文学研究資料館蔵
55	帝国劇場 夜延次第「明治の曙 / 歌まくら」	松居松翁、半井桃水	1926(大正15)年4月30日	早稲田大学演劇博物館蔵
56	皇国雷名の諸君見立力競	正久	1882(明治15)年	国文学研究資料館蔵
57	東京持丸長者鑑	永島虎重、多賀基五郎	1877(明治10)年	国文学研究資料館蔵
58	現今長者鑑	児玉又七編	1886(明治19)年	国文学研究資料館蔵
4-2. 葬儀と遺言				
59	「大倉喜八郎亦石岳登山時作成狂歌」 (『鶴友会々報』第9号)	鶴友会、橋本鐵男	1926(大正15)年10月25日	東京経済大学蔵
60	三井高保、大倉喜八郎両名二授爵ノ栄典ヲ与ヘ ラレタキ旨総理大臣ヨリ宮内大臣へ通牒		1915(大正4)年11月12日	国立公文書館蔵
61	隠居許可証		1927(昭和2)年1月5日	東京経済大学寄託
62	襲爵被仰付		1927(昭和2)年1月7日	東京経済大学寄託
63	石黒忠恵受託 大倉鶴彦翁伝言(封筒付き)	石黒忠恵	1928(昭和3)年7月8日	東京経済大学寄託
64	張作霖からの「弔旗」		1928(昭和3)年	大倉集古館蔵
65	『大倉喜八郎葬儀 写真帖』乾・坤		1928(昭和3)年	東京経済大学蔵
66	感涙のうた(絶筆)	大倉喜八郎	1928(昭和3)年4月8日	大倉集古館蔵
67	『時鳥集』	鶴友会	1930(昭和5)年5月	東京経済大学蔵
68	『努力』	大倉喜八郎	1916(大正5)年	東京経済大学蔵

作品リスト

No.	作品名	作者等	時代	所蔵
第2部 大倉商業学校から東京経済大学へ ― 記録と記憶でつづる120年 ―				
1. 大倉商業学校の創設 ― 東京経済大学のはじまり ―				
69	授業時間を知らせる鐘		1739(元文4)年	東京経済大学蔵
1-1. 創設への道				
70	肖像 大倉喜八郎	江原全秀	1950(昭和25)年頃か	東京経済大学蔵
71	貿易意見書	大倉喜八郎	1886(明治19年)年4月	東京経済大学蔵
72	「居貿易と出貿易」(『新日本』第6巻第10号)	大倉喜八郎	1916(大正5)年10月1日刊	東京経済大学蔵
73	『還暦銀婚之記』(大倉商業学校創立の主意)	田辺浩	1898(明治31)年12月15日刊	東京経済大学蔵
74	「大倉氏邸に於ける演説」(『太陽』第4巻第13号)	伊藤博文	1898(明治31)年5月23日刊	東京経済大学蔵
75	新撰東京名所図会(『風俗画報』第37編)		1903(明治36)年1月25日刊	東京経済大学蔵
76	石黒忠恵宛渋沢栄一書簡	渋沢栄一	1900(明治33)年12月13日	国立国会図書館憲政資料室蔵
77	【重要文化財】大倉商業学校設置認可交付の件【複製】	文部省	1900(明治33)年7月9日	東京都公文書館蔵
1-2. 大倉商業学校の開校と建学の精神				
78	自助 努力 誠意(『鶴彦翁簡墨遺蹟集』)	大倉喜八郎	1920(大正9)年頃	大倉集古館蔵
79	教育を孕(はら)みて建る学ひ屋は 有為の士をも生み出すらむ(『鶴彦翁簡墨遺蹟集』)	大倉喜八郎	1907(明治40)年	大倉集古館蔵
80	小谷野敬三 家族写真(『大倉商業学校教員写真集』)	大倉商業学校	[1911(明治44)年]	東京経済大学蔵
81	辞令(報酬月65円支給)	大倉商業学校	1909(明治42)年1月9日	東京経済大学蔵
82	大倉商業学校出講許可の件	[大倉商業学校]	1901(明治34)年5月3日	東京経済大学蔵
83	書簡(授業日時につき別紙を確認されたし)	大倉喜八郎	1901(明治34)年8月21日	東京経済大学蔵
84	寄付金目録		1925(大正14)年	大倉集古館蔵
85	遅刻入場許可願		1918(大正7)年	東京経済大学蔵
1-3. 実学教育と学校生活				
86	『祝辞集』天	大倉商業学校	1902(明治35)年11月	東京経済大学蔵
87	『祝辞集』地	大倉商業学校	1902(明治35)年11月	東京経済大学蔵
88	「満洲旅行日記 小林理三郎」 (『大倉商業学校校友会雑誌』第5号)	小林理三郎	1906(明治39)年10月刊	東京経済大学蔵
89	小林理三郎(写真)(『創立満10周年記念号』)	大倉商業学校校友会	1910(明治35)年10月23日	東京経済大学蔵
90	『最新 商業算術教科書』第1巻	同文館	1904(明治37)年3月5日刊	東京経済大学蔵
91	『商業地理教科書』	普及舎	1903(明治36)年2月12日刊	東京経済大学蔵
92	レポート「関東並二奥羽ノ内陸交通系ニヨリ 運搬セラル、商品ノ種類」	今井正根(本科4学年)	[1910(明治43)年]	東京経済大学蔵
93	レポート「輸出絹布に就て」	神戸光吉(本科4学年)	1910(明治43)年	東京経済大学蔵
94	レポート「酒類につき」	橋本昇、松下健太郎、浅川鎮高	[1910(明治43)年頃]	東京経済大学蔵
95	署中休暇日記	岸八郎(本科第2学年)	1913(大正2)年	東京経済大学蔵
96	署中休暇日記	岸八郎(本科第3学年)	1914(大正3)年	東京経済大学蔵
97	岸八郎の卒業記念写真(向かって左側)		1915(大正4)年	東京経済大学蔵
98	本科第1回卒業記念写真	大倉商業学校	1904(明治37)年4月5日	東京経済大学蔵
99	「御木本幸吉氏の母校卒業生に対する好意」 (『大倉商業学校同窓会会報』第2号)	大倉商業学校	1911(明治44)年3月11日刊	東京経済大学蔵

No.	作品名	作者等	時代	所蔵
2. 大倉高等商業学校の時代				
2-1. 高等商業学校への昇格と関東大震災				
100	【重要文化財】高等商業学校への組織変更申請書【複製】		1919(大正8)年3月28日	東京都公文書館蔵
101	卒業アルバム・大倉商業学校(『第21回卒業記念写真帖』一)	大倉商業学校	1923(大正12)年3月	東京経済大学蔵
102	卒業アルバム・大倉商業学校(『第21回卒業記念写真帖』二)	大倉商業学校	1923(大正12)年3月	東京経済大学蔵
103	「入学試験」(『大倉高商で学んだこと』)	毛利晃雄	2000(平成12)年7月	東京経済大学蔵
104	大倉高等商業学校学則抜萃及入学志願者心得	大倉高等商業学校	1929(昭和4)年	東京経済大学蔵
105	大倉商業時代・自筆講義ノート(倫理学・染村教授、工業・後閑講師)	岡本茂和	1935～1938(昭和10～13)年	東京経済大学蔵
106	[大倉商業時代・自筆講義ノート(経済・経済原論・商業通論、第一学年)]	岡本茂和	1935～1938(昭和10～13)年	東京経済大学蔵
107	京都・東京等スケッチ11(1922-5/26 校庭)	稲垣知雄	1922(大正11)年5月26日	世田谷美術館蔵
108	関東大震災時スケッチ「大倉高商」	稲垣知雄	1923(大正12)年9月	世田谷美術館蔵
109	渋沢栄一宛阪谷芳郎書簡(震災関係、震災後の復興方針に係る「上申書」同封)	阪谷芳郎	1923(大正12)年9月20日	渋沢史料館蔵
110	こづかい帳	毛利晃雄	1923(大正12)年4月～1926(昭和元)年3月	東京経済大学蔵
111	1922-6/7 SS.Alabama 丸にて	稲垣知雄	1922(大正11)年6月7日	世田谷美術館蔵
112	1922-6/7 海外旅行団団長Alabama Marin 上ノ読書	稲垣知雄	1922(大正11)年6月9日	世田谷美術館蔵
113	1922-6/14 香港松原別館ノ窓ヨリ	稲垣知雄	1922(大正11)年6月14日	世田谷美術館蔵
114	天草丸テッキバツセンジャー 6/18	稲垣知雄	1922(大正11)年6月18日	世田谷美術館蔵
115	1922-6/22 台北台湾高等商業学校附近	稲垣知雄	1922(大正11)年6月22日	世田谷美術館蔵
116	1922-6/24 台南にて	稲垣知雄	1922(大正11)年6月24日	世田谷美術館蔵
117	安平ニテ 6/24	稲垣知雄	1922(大正11)年6月24日	世田谷美術館蔵
118	1922-6/26 総督府	稲垣知雄	1922(大正11)年6月26日	世田谷美術館蔵
119	台北 1922-6/24	稲垣知雄	1922(大正11)年6月26日	世田谷美術館蔵
120	1922-6/26 台北博物館	稲垣知雄	1922(大正11)年6月26日	世田谷美術館蔵
121	台北 江山楼より 1922-6/25	稲垣知雄	1922(大正11)年6月25日	世田谷美術館蔵
122	7/1 京都ニテ 東一条通り精華女学校	稲垣知雄	1922(大正11)年7月1日	世田谷美術館蔵
123	京都御所 7/1 寺町御門	稲垣知雄	1922(大正11)年7月1日	世田谷美術館蔵
124	[集合写真・南洋旅行団解散二先キ立テ、於基隆記念撮影]		1922(大正11)年6月26日	東京経済大学蔵
125	天草丸(甲板客船)	稲垣知雄	1922(大正11)年6月18日	世田谷美術館蔵
126	猫の夜行	稲垣知雄	1960(昭和35)年	東京経済大学蔵
127	『交通広告資料』	大倉高等商業学校・広告研究会	1930(昭和5)年2月25日刊	東京経済大学蔵
128	『広告研究』第1集	大倉高等商業学校・広告研究会	1930(昭和5)年12月刊	東京経済大学蔵
129	卒業証書		1926(昭和元)年3月29日	東京経済大学蔵
130	立花寛蔵宛大倉喜八郎書簡	大倉喜八郎	1927(昭和2)年2月14日	東京経済大学蔵

作品リスト

No	作品名	作者等	時代	所蔵
	2-2. 大倉高商の発展 ―「大倉ボーイ」の時代―			
131	『大倉鶴彦翁最後の訓話』	大倉喜八郎	1928(昭和3)年1月9日刊	東京経済大学蔵
132	絵はがき〔大倉高等商業学校創立30周年記念〕	〔大倉高等商業学校〕	1930(昭和5)年	東京経済大学蔵
133	大倉喜八郎葬儀時の学生代表の弔辞		1928(昭和3)年4月28日	東京経済大学蔵
134	組長任命書	〔大倉高等商業学校〕	1928(昭和3)年4月	東京経済大学蔵
135	創立30周年記念祭式次第	〔大倉高等商業学校〕	1930(昭和5)年	渋沢史料館蔵
136	『大倉学会雑誌』創刊号	大倉高等商業学校・大倉学会	1928(昭和3)年12月刊	東京経済大学蔵
137	『商業経済研究』第1号	大倉高等商業学校・経済研究会	1926(昭和2)年12月刊	東京経済大学蔵
138	『東亜事情研究』創刊号	大倉高等商業学校・東亜事情研究会	1925(大正14)年3月1日刊	東京経済大学蔵
139	『大倉高商新聞』創刊号	大倉高等商業学校・新聞部	1928(昭和3)年4月刊	東京経済大学蔵
140	『貝塚』（『大倉高等商業学校新聞』記事原稿集）	柳川香一編	1935(昭和10)年	東京経済大学蔵
141	メダル 大倉高等商業学校・端艇部		1925(大正14)年	東京経済大学蔵
142	メダル 大倉高等商業学校・漕艇部		1940(昭和15)年	東京経済大学蔵
143	メダル 大倉高等商業学校・校友会柔道部		1933(昭和8)年	東京経済大学蔵
144	メダル 大倉高等商業学校・柔道部		1928(昭和3)年	東京経済大学蔵
145	メダル 大倉高等商業学校・剣道部		1933(昭和8)年	東京経済大学蔵
146	渋沢栄一宛大倉高等商業学校水泳部陸上競技部書簡（『映画と音楽の集ひ』開催通知と募金依頼）	大倉高等商業学校・水泳部、陸上競技部	1931(昭和6)年6月	渋沢史料館蔵
147	大倉高商水泳部・陸上競技部主催「映画と音楽の集ひ」パンフレット	大倉高等商業学校・水泳部、陸上競技部	1931(昭和6)年6月20日	渋沢史料館蔵
148	『葵水会会報』	大倉高等商業学校・葵水会	1932(昭和7)年9月刊	東京経済大学蔵
149	『葵丘文芸』第42号	大倉高等商業学校・文芸部	1928(昭和3)年12月13日刊	東京経済大学蔵
150	『英語会会報』第3号	大倉高等商業学校・英語会	1935(昭和10)年刊	東京経済大学蔵
151	第17回発表演奏会プログラム	大倉高等商業学校・マンドリン部	1933(昭和8)年6月11日	東京経済大学蔵
152	秋季演奏会曲目	大倉高等商業学校・管楽部	1927(昭和2)年11月20日	東京経済大学蔵
153	昭和五年末ノ本校紛擾事件顛末報告書	川口西三	1931(昭和6)年2月10日	東京経済大学蔵
154	日記(二・二六事件の頃)	岡本茂和	1936(昭和11)年	東京経済大学蔵
155	学生手帳(大倉高等商業学校)	辻孝八郎	1940(昭和15)年	東京経済大学蔵
156	賞状(学年間終始一貫教練出場・熱心精励)	大倉高等商業学校	1941(昭和16)年3月10日	東京経済大学蔵
157	善隣商業学校 内地修学旅行日程表		1937(昭和12)年	東京経済大学蔵(大倉財閥資料)
158	大阪大倉商業学校規則	大阪大倉商業学校	1932(昭和7)年1月	東京経済大学蔵(大倉財閥資料)
159	生徒ノ左傾思想取締ニ関スル件	文部省専門学校局長栗屋謙	1926(大正15)年5月13日	東京経済大学蔵
160	『大倉高商学報』102号	大倉高等商業学校・学報部	1938(昭和13)年1月25日刊	東京経済大学蔵
	2-3. 夜学と勤労学生			
161	『祝辞集』人	大倉商業学校	1902(明治35)年11月	東京経済大学蔵
162	〔大倉商業学校夜学専修科 第1回卒業記念写真〕	大倉商業学校	〔1903(昭和28)年3月〕	東京経済大学蔵
163	〔大倉高等商業学校夜学中等科(普通科) 第1回卒業記念写真〕	大倉高等商業学校	1926(昭和元)年3月	東京経済大学蔵
164	校友会費領収証(金10銭)	大倉高等商業学校中等科専修科校友会	1940(昭和15)年12月6日	東京経済大学蔵
165	『校友会報』創刊号	大倉高等商業学校中等科専修科校友会	1933(昭和8)年3月25日	東京経済大学蔵
166	メダル 大倉高等商業学校・中等科柔道部		1934(昭和9)年	東京経済大学蔵
167	メダル 第6回学芸大会・大倉高等商業学校・中等科校友会		1936(昭和11)年	東京経済大学蔵
168	『山岳部部報』第7号	大倉高等商業学校中等科専修科校友会	1936(昭和11)年11月25日刊	東京経済大学蔵
169	『千曲川』	小宮山量平	1997(平成9)年7月刊	東京経済大学蔵
170	〔夜学科生徒への校内巡視強化について〕	川口西三	1931(昭和6)年5月14日	東京経済大学蔵
171	はがき(大倉高等商業学校附設中等科を東京大倉商業学校へ名称変更の通知)	東京大倉商業学校	1943(昭和18)年3月	東京経済大学蔵

No	作品名	作者等	時代	所蔵
	3. 戦時下の学校			
	3-1. 戦時下の学生生活			
172	卒業証明書	古舘市太郎	1944(昭和19)年10月13日	東京経済大学蔵
173	学業成績通知書第2学年2学期	大倉高等商業学校	1943(昭和18)年3月10日	東京経済大学蔵
174	今夏季ニ於ケル学校報国隊ノ勤労協力ニ関スル件	大倉高等商業学校	1943(昭和18)年11月2日	東京経済大学蔵
175	大倉高商音楽班洋楽科 報国団結成第1回春季演奏会(プログラム)	〔大倉高等商業学校〕	1941(昭和16)年	東京経済大学蔵
176	南方華僑論	西田晃哉	1943(昭和18)年	東京経済大学蔵
177	南方主要鉱業論	小澤長三郎	1943(昭和18)年	東京経済大学蔵
178	大東亜石炭論	井口要之助	1943(昭和18)年	東京経済大学蔵
179	〔今次聖戦戦没者慰霊祭挙行の件〕	大倉高等商業学校	1943(昭和18)年10月12日	東京経済大学蔵
180	慰霊祭次第(今次聖戦戦没者慰霊祭)	〔大倉高等商業学校〕	1943(昭和18)年10月12日	東京経済大学蔵
181	臨時徴兵検査判定調書送付の件	大倉高等商業学校	1943(昭和18)年12月7日	東京経済大学蔵
182	はがき(台湾出身出征兵からの照会)	張振傳	1944(昭和19)年1月31日	東京経済大学蔵
183	はがき(教務課宛吉田市太郎筆)	吉田市太郎	1944(昭和19)年	東京経済大学蔵
184	〔学徒出陣により授与した仮卒業証書と引き換えに本証書を授与する旨を保護者に連絡する文書〕	大倉高等商業学校	1944(昭和19)年9月12日	東京経済大学蔵
185	富士電機株式会社宛古舘校長筆書簡の下書き	古舘市太郎	1944(昭和19)年7～8月頃	東京経済大学蔵
	3-2. 終戦と学校の再開			
186	戦災ニ依ル校舍焼失ニ関スル件報告(文部省専門局長宛)	〔大倉高等商業学校〕	1945(昭和20)年6月11日	東京経済大学蔵
187	はがき(復員学生徒兵による復学に関する問い合わせ)		1945(昭和20)年	東京経済大学蔵
188	入学志願者心得(陸海軍諸学校出身者及在学者等の転校又は編入学)と受験票	〔大倉高等商業学校〕	1945(昭和20)年10月	東京経済大学蔵
189	学生大会決議事項		1946(昭和21)年2月22日	東京経済大学蔵
	4. 東京経済大学の誕生			
	4-1. 新しい大学へ―国分寺への移転と新制大学への移行―			
190	校舍移転の決議書		1946(昭和21)年1月20日	東京経済大学蔵
191	『大倉経専学報』復刊第1号	大倉経済専門学校	1946(昭和21)年末刊	東京経済大学蔵
192	夜間部本科別科時間帯	〔大倉経済専門学校〕	1947(昭和22)年5月	東京経済大学蔵
193	復興資金と大学昇格基金への寄付金の受領証	大倉経済専門学校	1947(昭和22)年4月2日	東京経済大学蔵
194	東京経済大学設置認可書	文部省	1949(昭和24)年3月28日	東京経済大学蔵
195	東京経済大学同短期大学部 入学志願者心得(昭和32年度)	東京経済大学	1956(昭和31)年	東京経済大学蔵
196	進学適性検査	〔東京経済大学〕	1950(昭和25)年	東京経済大学蔵
	4-2. 「新しい大学」での学生生活と学内対立			
197	学生服		年代不明	東京経済大学蔵
198	学帽		1960(昭和35)年代	東京経済大学蔵
199	東京経済大学時代の帽子の徽章	〔東京経済大学〕	〔1955(昭和30)年頃〕	東京経済大学蔵
200	大倉高等商業学校時代の帽子の徽章とヘルトのバックル			東京経済大学蔵
201	学生証(経済学部第1部経済学科・第4年次・山浦曄夫)		1957(昭和32)年4月1日発行	東京経済大学蔵
202	「学園と学生 女子学生座談会」(『東京経済大学新聞』第87号)		1955(昭和30)年6月5日	東京経済大学蔵
203	While the Sun Shines(英語会シナリオ)	〔東京経済大学〕・英語部	1950(昭和25)年代前半	東京経済大学蔵
204	『雑草』創刊号	大倉経済専門学校・文芸部	1947(昭和22)年1月	東京経済大学蔵
205	『社研』第1号	東京経済大学・社会科学研究会	1951(昭和26)年1月	東京経済大学蔵
206	『大倉会計』創刊号	東京経済大学・会計学研究会	1952(昭和27)年7月	東京経済大学蔵
207	経済学概論	東京経済大学・渡辺輝雄	1950(昭和25)年代	東京経済大学蔵
208	信用論(講義ノート)	小日向允	1950(昭和25)年代前半	東京経済大学蔵
209	学科目配当表(第一学部)	〔東京経済大学〕	1951(昭和26)年度	東京経済大学蔵
210	渡辺輝雄教授不当解職問題をめぐって	〔東京経済大学〕	1952(昭和27)年	東京経済大学蔵
211	誓い(榊美智子さんの死に哀悼と不屈の闘いを誓う)	東京経済大学全学集会	1960(昭和35)年6月16日	東京経済大学蔵
212	新安保条約にたいする反対声明	東京経済大学教授団	1960(昭和35)年2月24日	東京経済大学蔵
213	全学一致で六月四日安保阻止統一行動に参加しよう(ピラ)	東京経済大学教授団、教職員組合、学生自治会、消費生活協同組合	1960(昭和35)年5月31日	東京経済大学蔵
214	7.2国会アモに立ち上れ そして新しい局面を切り開らこう(ピラ)	東経大マルクス研究会	1960(昭和35)年7月1日	東京経済大学蔵

作品リスト

No	作品名	作者等	時代	所蔵
5. 大学の発展とゼミ活動				
5-1. 発展の礎—北澤・堀体制と教育環境の整備—				
215	肖像 堀久作	江原全秀	1950(昭和25)年代前半	東京経済大学蔵
216	東京経済大学経営学部設置認可書	文部省	1964(昭和39)年1月25日	東京経済大学蔵
217	〔募金活動への協力願〕	染村龜鶴、塚本文治	1959(昭和34)年1月	東京経済大学蔵
218	感謝状(東京経済大学新本館建設への寄附に対して)	東京経済大学	1960(昭和35)年4月1日	東京経済大学蔵
219	〔竣工記念パンフレット〕(東京経済大学新本館)	東京経済大学	1959(昭和34)年4月7日竣工	東京経済大学蔵
5-2. ゼミ活動の活発化と学生生活				
220	【東京都指定文化財】 五日市憲法草案(深沢家文書)	千葉卓三郎	1881(明治14)年	個人蔵 (東京都あきるの市教育委員会寄託) 展示期間: 10/13~ 期間外 複製
221	『葵ゼミナール論叢』創刊号	東京経済大学ゼミナール連合会	1964(昭和39)年4月	東京経済大学蔵
222	カリキュラム改革案に寄せられた学生の意見		1970(昭和45)年	東京経済大学蔵
223	1970年度学科目一覧表(『学修指導書』)			東京経済大学蔵
224	〔葵祭 パンフレット〕	東京経済大学	1960(昭和35)年ほか	東京経済大学蔵
225	領収証(国会請願運動へのカンパ)		1969(昭和44)年6月28日	東京経済大学蔵
226	12.3 大衆団交に総結集を		〔1970(昭和45)年12月3日〕	東京経済大学蔵
6. 社会科学系総合大学への道				
6-1. 時代と社会の要請に応じた改革				
227	CARAVAN(1973年度)	東京経済大学文化会内東北キャラバン隊実行委員会	1973(昭和48)年ほか	東京経済大学蔵
228	CARAVAN(1976年度)	東京経済大学文化会内東北キャラバン隊実行委員会	1976(昭和51)年	東京経済大学蔵
229	CARAVAN(1980年度)	東京経済大学文化会内東北キャラバン隊実行委員会	1980(昭和55)年	東京経済大学蔵
230	第2回市民大学講座テキスト	国分寺市教育委員会、東京経済大学	1983(昭和58)年	東京経済大学蔵
231	北京対外貿易学院との学術教育交流に関する協定書		1984(昭和59)年	東京経済大学蔵
232	大倉記念学芸振興会の活動を彩った学術講演会・芸術公演の数々		2018(平成30)年1月	東京経済大学蔵
233	コミュニケーション学部 開設時のパンフレット	東京経済大学	1995(平成7)年	東京経済大学蔵
234	現代法学部設置認可書	文部省	2000(平成12)年	東京経済大学蔵
6-2. 21世紀の東京経済大学				
235	TKU チャレンジシステム 2009 ガイドブック	東京経済大学	2008(平成20)年5~6月	東京経済大学蔵
236	2001年スタート資格取得支援キャリアサポート講座 パンフレット	東京経済大学	2001(平成13)年	東京経済大学蔵
237	『学生災害ボランティア派遣事業報告書』	東京経済大学	2012(平成24)年1月24日	東京経済大学蔵
238	第7回日銀グランプリ最優秀賞盾	日本銀行	2011(平成23)年12月3日	東京経済大学蔵
239	第14回日銀グランプリ最優秀賞盾	日本銀行	2018(平成30)年	東京経済大学蔵
240	第15回日銀グランプリ最優秀賞盾	日本銀行	2019(令和元)年	東京経済大学蔵
241	「本日、ここに集えなかったみなさんへ」	朝日新聞	2020(令和2)年3月23日	東京経済大学蔵
242	「考え抜く実学」ポスター	東京経済大学	2019(令和元)年	東京経済大学蔵

出品数：242件

令和2年度(5)

特別展 海を渡った古伊万里 ~ウィーン、ロースドルフ城の悲劇~

※新型コロナウイルス感染症対策のため会期変更、一部イベント中止

会 期：令和2年11月3日(火・祝)~令和3年3月21日(日)
 ※令和2年11月3日(火・祝)~令和3年1月24日(日)から変更
 ※1月12日(火)~2月19日(金)臨時休館
 ※2月20日(土)~3月21日(日)再開館

開館時間：10時~17時

開催日数：85日間 ※イベント含む

入場者数：10,987人(1日平均約129人)※イベント含む

観 覧 料：一般 1,300円、大学・高校生 1,000円、中学生以下無料

会 場：大倉集古館 1階・2階展示室

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館、日本経済新聞社

協 賛：大成建設株式会社、中央建物株式会社、株式会社サニーサイドアップ、西戸崎興産株式会社、西戸崎開発株式会社、株式会社ニッピ、葵レバンテ株式会社、有楽町税理士法人

後 援：オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム、日壇協会

特別協力：ロースドルフ城ピアッツェィ家、一般社団法人古伊万里再生プロジェクト、佐賀県立九州陶磁文化館

協 力：株式会社ホテルオークラ東京、特種東海製紙株式会社

企画協力：キュレーターズ

監 修：荒川正明(学習院大学)

広 報 物：ポスター(B2)、チラシ(A4)(デザイン：酒井田成之(酒井田デザイン事務所))

図 録：本文200頁(25.7×18.1cm)
 監修 荒川正明(学習院大学)
 発行 株式会社キュレーターズ
 デザイン 酒井田成之(酒井田デザイン事務所)
 印刷 岡村印刷工業株式会社

配付資料：「作品リスト」

担 当：四宮美帆子(学芸員)、高橋裕次(学芸部長)

展示趣旨：
 オーストリア、ウィーン近郊にたたずむロースドルフ城には、古伊万里を中心とした陶磁コレクションが多数所蔵され、かつてそれらは城内を美しく飾っていました。ところが、第二次世界大戦後の悲劇により、陶磁コレクションの大半は粉々に破壊されてしまったのです。本展では、佐賀県立九州陶磁文化館所蔵の古伊万里の名品とともに、ロースドルフ城の陶磁コレクションと破壊された陶片を展覧し、さらには、日本の技術により修復した作品などを初公開いたしました。

展示構成：
第Ⅰ部 日本磁器の誕生地—有田
 1 日本磁器の誕生、そして発展
 2 世界を魅了した「古伊万里」
 3 万国博覧会と有田焼
第Ⅱ部 海を渡った古伊万里の悲劇—ウィーン、ロースドルフ城
 1 ウィーン、ロースドルフ城の磁器コレクション
 2 ロースドルフ城の悲劇
 3 「破壊」から「再生」へ



チラシ



図録表紙



展示風景



関連イベント

※緊急事態宣言により一部イベント中止

①報道内覧会／一般内覧会

日 時：令和2年11月2日(月)
 (報道：10時30分開場、一般：14時開場)
 参加人数：17人(報道)、220人(一般)

②講演会「古伊万里再生プロジェクト

～陶片をつなぐ 世界をつなぐ～
 日 時：令和2年11月14日(土)14時、15時開演(2回開催)
 講 師：保科眞智子
 (一般社団法人 古伊万里再生プロジェクト代表)
 場 所：大倉集古館地下1階ホール
 料 金：無料(要入館券)
 参加人数：49人(14時から)、45人(15時から)

③講演会「ロースドルフ城の陶片は何を語るのか」

日 時：令和2年12月5日(土)14時開演
 講 師：荒川正明(学習院大学教授、本展監修者)
 場 所：大倉集古館 地下1階ホール
 料 金：無料(要入館券)
 参加人数：39人
 ※NHK ラジオ第2文化講演会の収録あり

④講演会「ロースドルフ城コレクションの修復について」**【中止】**

日 時：令和3年1月9日14時開演
 講 師：繭山浩司(修復家)
 場 所：大倉集古館 地下1階ホール
 料 金：無料(要入館券)

⑤ギャラリートーク**【1/13は中止】**

日 時：令和2年11月17日(火)、12月15日(火)、
 令和3年1月13日(水)、各14時開演
 講 師：森谷美保(美術史家)
 場 所：大倉集古館 展示室
 料 金：無料(要入館券)
 参加人数：40人(11/17)、35人(12/15)



①報道内覧会



②講演会(保科眞智子氏)



⑤ギャラリートーク

⑥The Okura Tokyo 開催 関連イベント

「ランチタイムコンサート&トークイベント」【中止】

日 時：令和3年1月15日(金)11時30分開演
 講 師：荒川正明(学習院大学教授、本展監修者)
 出 演：鳥羽咲音(チェロ)、鳥羽奏子(ピアノ)
 場 所：The Okura Tokyo
 料 金：12,000円
 主 催：The Okura Tokyo

⑦古伊万里再生プロジェクト特別ギャラリートーク

日 時：令和3年3月15日(月)、1月22日(月)
 講 師：保科眞智子
 (一般社団法人 古伊万里再生プロジェクト代表)
 場 所：大倉集古館 展示室
 料 金：無料(要入館券)
 主 催：一般社団法人 古伊万里再生プロジェクト
 参加人数：43人(3/15)、44人(3/22)

⑧東京藝大 I LOVE YOU プロジェクト オンライン講演会

「文化財と戦争」

日 時：令和2年10月31日(土)
 講 演：井上洋一(東京国立博物館 副館長)
 ヴェレーナ・ピアッティ(ピアッティ家現当主夫人)
 保科眞智子(一般社団法人 古伊万里再生プロジェクト代表)
 荒川正明(学習院大学文学部哲学科教授)
 高橋裕次(大倉集古館学芸部長)
 配信開場：東京藝術大学
 主 催：東京藝術大学大学院美術研究科
 文化財保存学専攻 保存修復工芸研究室



⑧東京藝大 I Love You プロジェクト

作品リスト

No	作品名	作者等	時代	所蔵
はじめに (1階)				
1	色絵唐獅子牡丹文亀甲透花瓶(部分修復)	日本・有田窯	1700-30年代	ロースドルフ城
2	色絵花卉美人文盆器(組み上げ・部分修復)	ヨーロツパ	18-19世紀	ロースドルフ城
第1部 日本磁器の誕生、そして発展(1階)				
1-1 染付磁器				
3	染付蓮花渦花卉文輪花大皿	日本・有田窯	1610-30年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
4	染付牛人物文水指	日本・有田窯	1610-30年代	佐賀県立九州陶磁文化館
5	染付波文葉形小皿	日本・有田窯	1620-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館
6	染付唐獅子文大皿	日本・有田窯	1630-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館
7	染付吹墨鷺文皿	日本・有田窯	1630-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
8	染付松竹梅文手付水注	日本・有田窯	1630-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館
9	染付山水唐草文輪花大皿	日本・有田窯	1640-50年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
10	色絵松唐人文輪花大皿	日本・有田窯	1640年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
1-2 色絵磁器の誕生				
11	色絵樹木花鳥文大皿	日本・有田窯	1640-50年代	佐賀県立九州陶磁文化館
12	色絵牡丹鳥文大皿	日本・有田窯	1650年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
13	色絵樹鳥波文大皿	日本・有田窯	1650年代頃	佐賀県立九州陶磁文化館
14	色絵椿岩文大皿	日本・有田窯	1650年代	佐賀県立九州陶磁文化館
1-3 食のうつわ				
15	色絵草紙七宝文変形小皿	日本・有田窯	1640-50年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
16	色絵蝶文花形皿	日本・有田窯	1650-60年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
17	色絵波兎文長皿	日本・有田窯	1650-60年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
18	鉄袖色絵馬文四方小皿	日本・有田窯	1650-60年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
19	色絵楳文変形小皿	日本・有田窯	1650-60年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
20	染付薄瑠璃釉柳鷺文輪花小皿	日本・有田窯	1660-70年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
1-4 鍋島磁器のデザイン				
21	色絵有職文皿	日本・鍋島藩窯	1660-70年代	今右衛門古陶磁美術館
22	青磁染付宝尽文大皿	日本・鍋島藩窯	1690-1720年代	大倉集古館
23	色絵紗綾形文皿	日本・鍋島藩窯	1690-20年代	今右衛門古陶磁美術館
24	色絵鶺鴒文皿	日本・鍋島藩窯	1700-20年代	佐賀県立九州陶磁文化館
25	色絵糸巻文皿	日本・鍋島藩窯	1690-1720年代	今右衛門古陶磁美術館
26	色絵青海波水仙文皿	日本・鍋島藩窯	1700-20年代	佐賀県立九州陶磁文化館
27	色絵竹筵文大皿	日本・鍋島藩窯	1730~60年代	今右衛門古陶磁美術館
1-5 柿右衛門様式				
28	色絵松竹梅岩鳥文輪花皿	日本・有田窯	1670-90年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
29	色絵草花鶴文輪花皿	日本・有田窯	1670-80年代	佐賀県立九州陶磁文化館
30	色絵花鳥文角瓶	日本・有田窯	1670-90年代	佐賀県立九州陶磁文化館
31	色絵岩牡丹柴垣文鉢	日本・有田窯	1670-90年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
32	色絵唐獅子像	日本・有田窯	1670-90年代	佐賀県立九州陶磁文化館
33	色絵赤玉棕櫚文婦人像	日本・有田窯	1670-90年代	佐賀県立九州陶磁文化館 長瀬正憲氏 寄贈
2 世界を魅了した「古伊万里」				
2-1 宮殿を彩った花瓶と壺				
34	色絵幔幕桜牡丹文壺・瓶	日本・有田窯	1700-30年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
35	色絵梅菊文大壺	日本・有田窯	1690-1730年代	佐賀県立九州陶磁文化館
2-2 華やかな皿				
36	色絵桜鷹菊唐草文大皿	日本・有田窯	1700-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
37	色絵芙蓉手花鳥文大皿	日本・有田窯	1650-60年代	大倉集古館
38	色絵菊牡丹唐草文髹皿	日本・有田窯	1690-1730年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
39	色絵傘婦人文皿	日本・有田窯	1730-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館
40	染付傘婦人文皿	日本・有田窯	1730-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館

作品リスト

No	作品名	作者等	時代	所蔵
2-3 瀧酒な器たち				
41	染付牡丹文水注	日本・有田窯	1650年代頃	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
42	色絵貼付牡丹文瓢形水注	日本・有田窯	1700-20年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
43	色絵草花文水注	日本・有田窯	1680-1700年代	佐賀県立九州陶磁文化館
44	色絵草花文碗皿	日本・有田窯	1700-30年代	今右衛門古陶磁美術館
45	色絵山水草花文小碗	日本・有田窯	1700-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
46	色絵花唐草松竹梅文水注	日本・有田窯	1720-50年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
47	色絵花盆牡丹唐草文蓋付小碗	日本・有田窯	1700-40年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
3. ウィーン万国博覧会と有田焼				
3-1 幕末、明治初期の輸出品				
48	色絵東屋山水草花蝶文大瓶	日本・有田 久富家	1840-60年代	佐賀県立九州陶磁文化館 柴田夫妻コレクション
49	色絵龍文貼付瓶	日本・有田 久富家	1840-60年代	個人蔵
50	色絵花鳥文取手付碗皿	日本・有田 田代家	1860-70年代	佐賀県立九州陶磁文化館 山口智也氏寄贈
51	色絵柘榴文碗皿	日本・有田 田代家	1850-70年代	佐賀県立九州陶磁文化館 山口智也氏寄贈
52	色絵草花鳳凰文家紋入台付透菱形鉢	日本・有田 田代家	1860-80年代	佐賀県立九州陶磁文化館 有田田代家寄贈
53	色絵花鳥文瓶	日本・有田 田代家	1860-70年代	個人蔵
54	色絵花鳥文蓋付壺	日本・有田窯	1860-80年代	個人蔵
3-2 香蘭社の創業				
55	色絵獅子牡丹文大皿	日本・有田 香蘭社	1875年	佐賀県立九州陶磁文化館 梶原茂弘・和子氏寄贈
56	色絵丸文大花瓶	日本・有田 香蘭社	1875-79年頃	個人蔵
第II部 海を渡った古伊万里の悲劇ーウィーン、ロースドルフ城				
ウィーン、ロースドルフ城の陶磁コレクション				
1-1 城内に伝えられた中国磁器				
57	粉彩梅樹牡丹文瓶	中国・景德鎮窯	18世紀	ロースドルフ城
58	粉彩梅樹牡丹文瓶	中国・景德鎮窯	18世紀	ロースドルフ城
59	五彩花卉人物文瓶	中国・景德鎮窯(絵付：広東)	18世紀後半-19世紀前半	ロースドルフ城
60	五彩花卉人物文六角盆器(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯(絵付：広東)	18世紀後半-19世紀前半	ロースドルフ城
61	五彩山水人物文瓶	中国・景德鎮窯	18世紀	ロースドルフ城
1-2 城内に伝えられた日本磁器				
62	色絵鳳凰文瓶	日本・有田窯	1700-1730年代	今右衛門古陶磁美術館
63	色絵花卉美人文瓶	日本・有田窯	1700-30年代	ロースドルフ城
64	色絵花鳥文瓶	日本・有田窯	1690-1730年代	佐賀県立九州陶磁文化館
65	色絵花鳥文瓶	日本・有田窯	1690-1730年代	今右衛門古陶磁美術館
66	色絵花鳥人物文瓶	日本・有田窯	1690-1720年代	ロースドルフ城
67	色絵松鶴文瓶	日本・有田窯	1700-30年代	ロースドルフ城
68	色絵四君子文瓶	日本・有田窯	1690-1730年代	佐賀県立九州陶磁文化館 井村幸裕氏寄贈
69	色絵花卉文蓋付壺	日本・有田 久富家	1840-60年代	ロースドルフ城
1-3 伝世品に見られる文様の交流史				
70	五彩花卉文皿(修復)	中国・景德鎮窯	18世紀前半	ロースドルフ城
71	五彩山水花卉文鉢	中国・景德鎮窯	18世紀前半	ロースドルフ城
72	五彩枝垂れ桜文皿	中国・景德鎮窯	18世紀前半	ロースドルフ城
73	色絵獅子牡丹文壺	ヨーロッパ	19世紀	株式会社香蘭社
74	色絵唐獅子牡丹文蓋付壺	ヨーロッパ	19世紀	ロースドルフ城
75	色絵花卉樓閣文蓋付壺	ヨーロッパ	19世紀	ロースドルフ城
76	色絵花卉文壺	ヨーロッパ	19世紀	ロースドルフ城

No	作品名	作者等	時代	所蔵
1-4 城内に伝えられた西洋磁器				
77	五彩花鳥文鉢(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯(絵付：オランダ)	18世紀前半	ロースドルフ城
78	色絵草花蝶文皿(修復)	オランダ・デルフト窯	17世紀後半-18世紀	ロースドルフ城
79	藍絵花卉文八角瓶	オランダ・デルフト窯	18世紀	ロースドルフ城
80	色絵梅樹文水注	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
81	色絵梅樹文皿	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
82	色絵花卉文碗(部分修復)	オーストリア・ウィーン窯	18世紀	ロースドルフ城
83	色絵花卉文皿	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
84	色絵薔薇文碗(組み上げ修復)	オーストリア・ウィーン窯	18世紀	ロースドルフ城
85	色絵風景人物文瓶	ヨーロッパ	19世紀	ロースドルフ城
86	人物花樹鳥禽文水差(部分修復)	イギリス・ウェッジウッド窯	19世紀前半	ロースドルフ城
87	釉下彩蝶文瓶	デンマーク・ロイヤルコペンハーゲン窯	1923-28年	ロースドルフ城
88	釉下彩草花文花瓶	デンマーク・ロイヤルコペンハーゲン窯	1923-28年	ロースドルフ城
1-5 伝世品に見られる文様の交流史				
2 ロースドルフ城の悲劇				
2-1 破壊された陶磁コレクション				
89	色絵柘榴桜樹文皿(破片)	日本・有田窯	1690-1720年代	ロースドルフ城
90	色絵花卉文皿(破片)	日本・有田窯	1700-40年代	ロースドルフ城
91	色絵花卉文皿(破片)	日本・精磁会社	1879-97年頃	ロースドルフ城
92	五彩花卉文皿(破片)	中国・景德鎮窯	17世紀後半-18世紀初頭	ロースドルフ城
93	青花花卉文皿(破片)	中国・景德鎮窯	18世紀前半	ロースドルフ城
94	五彩花卉文皿(破片)	中国・景德鎮窯	18世紀前半	ロースドルフ城
95	五彩花卉文瓶(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯	18世紀	ロースドルフ城
96	色絵花盆文八角大皿(組み上げ修復)	日本・有田窯	1700-40年代	ロースドルフ城
97	色絵花卉文蓋物(破片)	日本・有田窯	1700-40年代	ロースドルフ城
98	色絵花卉文瓶(破片)	日本・有田窯	1700-40年代	ロースドルフ城
陶片の間再現コーナー				
99	白磁壺「四代元素・地」(組み上げ修復)	ドイツ・マイセン窯	20世紀初頭	ロースドルフ城
100	白磁大壺(組み上げ修復)	ドイツ・マイセン窯	20世紀初頭	ロースドルフ城
101	五彩・色絵花卉文碗皿(破片)	中国・景德鎮窯	18世紀前半	ロースドルフ城
102	藍絵花卉人物文瓶(破片)	オランダ・デルフト窯	18世紀	ロースドルフ城
103	釉下彩瓶、置物(破片)	デンマーク・ロイヤルコペンハーゲン窯	19世紀末-20世紀初頭	ロースドルフ城
104	釉下彩草花文蓋物	デンマーク・ロイヤルコペンハーゲン窯	1898-1922年	ロースドルフ城
105	釉下彩水仙文蓋付壺	デンマーク・ロイヤルコペンハーゲン窯	1898-1922年	ロースドルフ城
106	釉下彩鷗文鉢	デンマーク・リユンビュー窯	1960年代	ロースドルフ城
107	色絵花卉文楕円大皿(破片)	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
破壊された陶磁コレクション				
108	染付草花鳥禽文碗皿(破片)	オーストリア・ウィーン窯	18世紀後半	ロースドルフ城
109	色絵菊花散らし文皿(破片)	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
110	色絵菊花散らし文皿	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	今右衛門古陶磁美術館
111	色絵花卉文四方瓶(破片)	オーストリア・ウィーン窯	18世紀後半	ロースドルフ城
112	色絵花卉文四方瓶	オーストリア・ウィーン窯	18世紀後半	ロースドルフ城
113	色絵人物文碗皿(組み上げ修復)	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
114	色絵人物文皿(組み上げ修復)	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城
115	色絵蓋物、碗皿(破片)	オーストリア・ウィーン窯	19世紀	ロースドルフ城

作品リスト

No.	作品名	作者等	時代	所蔵
2-2 陶片～往時の姿				
116	藍釉金彩花卉文三足鉢、碗皿(組み上げ修復)	ドイツ・マイセン窯	1860-80年代	ローズドルフ城
117	色絵花鳥文輪違い透かし皿(破片)	日本・有田窯	1670-90年代	ローズドルフ城
118	染付人物文輪繫形鉢	日本・有田窯	1670-90年代	佐賀県立九州陶磁文化館 今泉吉郎・吉博コレクション
119	色絵花鳥文輪違い透かし鉢	日本・有田窯	1670-90年代	株式会社香蘭社
120	色絵人物花鳥文蓋付壺(破片)	日本・九谷 塚谷竹軒	19世紀後半	ローズドルフ城
121	色絵人物花鳥文蓋付壺	日本・九谷 塚谷竹軒	19世紀後半	ローズドルフ城
122	色絵花卉文蓋付壺・広口瓶(破片)	日本・有田 香蘭社	1875年-80年代	ローズドルフ城
123	色絵松竹梅文水注	日本・有田 香蘭社	1875年-80年代	株式会社香蘭社
124	色絵生花牡丹文台付皿	日本・有田 香蘭社	1875年-80年代	株式会社香蘭社
125	色絵菊桜文細首瓶	日本・有田 香蘭社	1875年-80年代	株式会社香蘭社
126	五彩花籠文八角皿(破片)	中国・景德鎮窯	17世紀後半-18世紀初頭	ローズドルフ城
127	五彩花籠文八角皿	中国・景德鎮窯	17世紀後半-18世紀初頭	ローズドルフ城
128	五彩宝尽し文具形皿(破片)	中国・景德鎮窯	17世紀後半-18世紀初頭	ローズドルフ城
129	五彩宝尽し文具形皿	中国・景德鎮窯	17世紀後半-18世紀初頭	ローズドルフ城
130	藍釉金彩風景文ハブーンシュ形置物(修復)	ドイツ・マイセン窯	19世紀前半	ローズドルフ城
131	藍釉金彩風景文碗皿	ドイツ・マイセン窯	19世紀後半	個人蔵
132	色絵花卉文碗(部分修復)	ドイツ・マイセン窯(絵付：ウィーン)	18世紀後半	ローズドルフ城
133	色絵花卉文碗皿(組み上げ修復)	ドイツ・マイセン窯(絵付：ウィーン)	18世紀後半	ローズドルフ城
134	染付花卉文皿	ドイツ・マイセン窯	18世紀後半	荒川正明氏
135	色絵草花蝶文楕円大皿	ドイツ・マイセン窯	1880-90年代	個人蔵
136	色絵草花蝶文楕円大皿	ドイツ・マイセン窯	1880-90年代	個人蔵
137	色絵花鳥文具形皿	ドイツ・マイセン窯	1740-50年代	個人蔵
138	色絵花卉文碗皿	ドイツ・マイセン窯	18世紀後半	個人蔵
139	色絵花卉文碗皿	イギリス・ウースター窯	1770-80年代	個人蔵
140	白磁透彫碗皿	フランス・セーヴル窯	1894年	個人蔵
141	色絵花樹鳥禽文碗皿	日本・有田窯	1670-90年代	個人蔵
142	色絵花卉文皿(陶片)			ローズドルフ城
3「破壊」から「再生」へ 3-1 よみがえった陶片				
143	色絵芙蓉文大皿	日本・鍋島藩窯	1700-30年代	佐賀県立九州陶磁文化館 鹿島鍋島家寄贈
144	色絵松竹梅鶴文八角大皿(修復)	日本・有田窯	1700-20年代	ローズドルフ城
145	色絵花卉文花瓶(組み上げ修復)	日本・有田窯	1690-1720年代	ローズドルフ城
146	五彩花鳥栗鼠文皿(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯(絵付：広東)	18世紀後半	ローズドルフ城
147	五彩花籠文皿(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯	18世紀	ローズドルフ城
148	五彩花卉文皿(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯	18世紀	ローズドルフ城
149	青花花卉文鉢(組み上げ修復)	中国・景德鎮窯	18-19世紀	ローズドルフ城
150	青花花卉文鉢(破片)	中国・景德鎮窯	18-19世紀	ローズドルフ城
151	色絵花卉文大皿(修復)	ヨーロッパ	19世紀	ローズドルフ城
152	色絵花卉文大皿(組み上げ修復)	日本・有田窯	19世紀中頃	ローズドルフ城
153	色絵花卉文花瓶(組み上げ修復)	日本・有田窯	19世紀後半	ローズドルフ城
154	色絵花卉文花瓶(組み上げ修復)	日本・有田窯	19世紀後半	ローズドルフ城
155	色絵牡丹文菊耳付花瓶	日本・有田 深川家 深海家	1870年代	株式会社香蘭社
156	色絵鹿紅葉花籠文耳付花瓶	日本・有田 深川家	1870-80年代	株式会社香蘭社

出品数：145件

令和2年度(6)

企画展 因州×備前 池田家の能面・能装束

※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

会 期：令和3年2月2日(火)～3月28日(日)

開館時間：10時～17時

開催日数：48日間(当初予定)

観 覧 料：一般 1,000円、大学・高校生 800円、中学生以下
無料

会 場：大倉集古館 1階・2階展示室

主 催：公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協 力：株式会社ホテルオークラ東京、特種東海製紙株式会社、
大成建設株式会社

広 報 物：ポスター(B2)、チラシ(A4)(デザイン：高見征毅(浅
野製版所))

担 当：佐々木智子(学芸員)

展示趣旨：

室町時代初期、猿楽を原型として大成された能楽は、今なお演じられている日本の貴重な伝統芸能です。近世以降は幕府や大名の保護を受けて「武家の式楽」として重んじられ、発展してきました。当館では、因州(鳥取藩)池田家旧蔵の「能面」と、備前(岡山藩)池田家旧蔵の「能装束」を多数所蔵しています。なかでも名品を選びすぐり、近世大名家による能愛好の模様を展覧いたします。

能小道具や、繁岡鑿一(しげおかけんいち)筆の能画、有馬伯爵家旧蔵と伝わる狂言面など、能楽を彩る幅広い作品群もあわせてご紹介いたします。

当館の能楽コレクションを通して、我が国に花開いた伝統の美と幽玄の世界をお楽しみください。

関連イベント：

①ギャラリートーク【中止】

日 時：令和3年2月16日(火)、3月9日(火)各14時から

担 当：佐々木智子(学芸員)

料 金：無料(要入館券)



チラシ



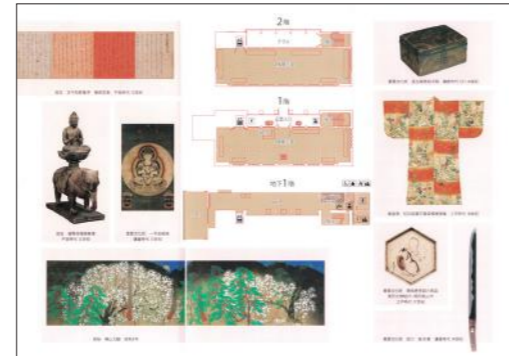
3. 広報・普及活動

(1) 施設案内制作(日本語・英語)

令和元年9月発行



日本語版



(2) 年間スケジュール制作(2020年度)

令和元年12月発行



(3) ウェブサイトリニューアル

大倉集古館リニューアルを期にウェブサイトのリニューアルを行った。令和元年9月

サイト構成

- ① トップページ
- ② 展覧会・イベント(現在の展覧会・イベント/これからの展覧会・イベント/これまでの展覧会)
- ③ 大倉集古館の概要
- ④ コレクション
- ⑤ オークラウロ
- ⑥ 利用案内
- ⑦ フロアガイド
- ⑧ ミュージアムショップ
- ⑨ ブログ
- ⑩ お問い合わせ
- ⑪ 利用案内(英語・中国語・韓国語)
- ⑫ サイトマップ
- ⑬ リンク



(4) ミュージアムグッズ制作

- ① トートバッグ
- ② 紙バッグ
- ③ クリアファイル
- ④ お香「普賢」、「夜桜」



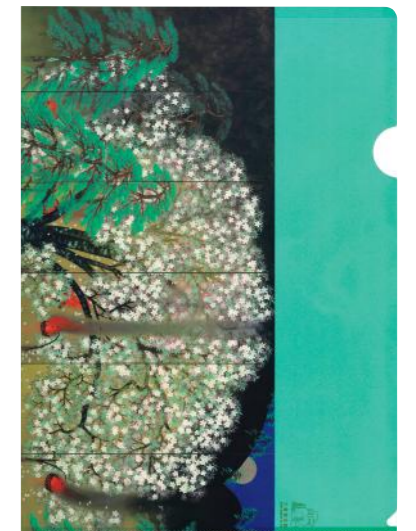
① トートバッグ

⑤ クリアファイル(6種制作)

- 「普賢菩薩騎象像」
- 「夜桜」
- 「清朝名人便面集珍」
- 「紅白段葉平菱菊模様唐織」
- 「罽金地垣夕顔模様縫箔」
- 「籬に葡萄図屏風」



「罽金地垣夕顔模様縫箔」



「夜桜」

⑥絵はがき(16種制作)

「普賢菩薩騎象像」3種

※「隨身底騎絵巻」

※「古今和歌集序」

※「扇面流図屏風」

※「源氏物語滯標図屏風」

※「鶉飼図屏風」

※「木菟図」

※「蹴合」

※「夜桜」2種

「長生殿蒔絵手箱」2種

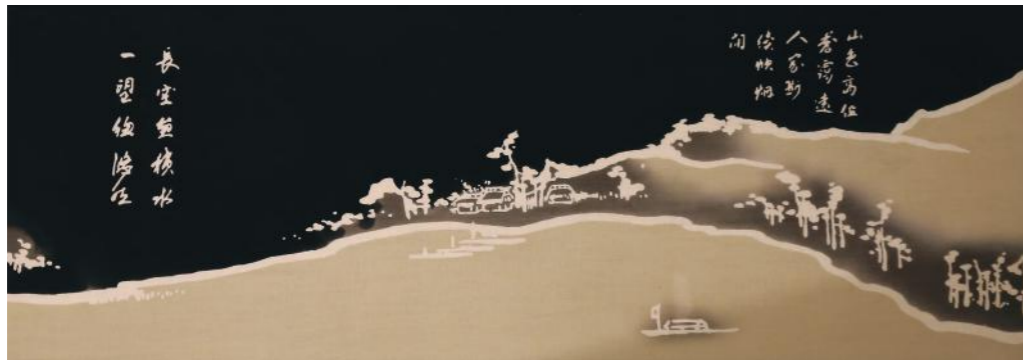
「紫地扇面藤柴垣模様長絹」

「紅白段葉平菱菊模様唐織」

※掲載しているもの



⑦手ぬぐい



「乗興舟」

4. 刊行物

①『大倉集古館所蔵名品百選』

令和元年9月発行

本文 144頁(29.7×22.2cm)

編集：安村敏信(学芸部顧問)

発行：大倉集古館

デザイン：高見征毅(株式会社 浅野製版所)

印刷：株式会社 浅野製版所

②『大倉集古館への誘い』(改訂新装版)

令和元年9月発行

本文 64頁(21.0×14.8cm)

編集：高橋裕次(学芸部長)、四宮美帆子(学芸員)

翻訳：ダニエル・モラン

発行：大倉集古館

デザイン：二井美好(二井デザイン室)

印刷：株式会社アイワード

③『大倉喜七郎とオークラウロ』(改訂新装版)

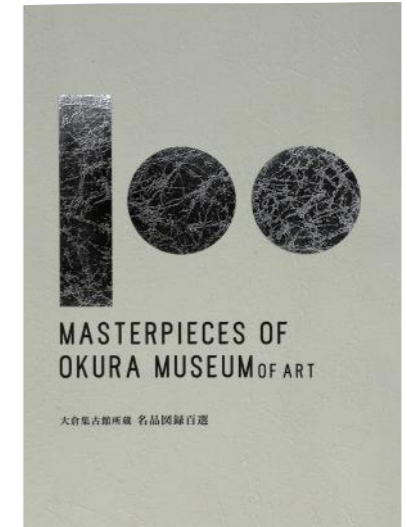
令和元年9月改訂発行

本文 50頁(21.0×14.8cm)

監修・執筆：田中知佐子(主任学芸員)

発行：大倉集古館

制作・印刷：株式会社メティウム



5. 資料特別利用

(1) 所蔵作品の貸出

年度	作品名	作者	展覧会会場名	展覧会会期	展覧会名
令和元年度 (2019年度)	「雑画帖」のうち 「太神楽」「莊子胡蝶の夢」	英一蝶	栃木県立美術館	令和元年11月2日(土)～12月22日(日)	企画展「菊川京三の仕事 —『國華』に綴られた日本美術史」
令和2年度 (2020年度)	「乗興舟」	伊藤若冲	山口県立美術館 あへのハルカス美術館	令和2年7月7日(火)～8月30日(日) 令和2年9月12日(土)～11月8日(日)	特別展 「奇才—江戸絵画の冒険者たち—」
	「鍾馗図」	葛飾戦斗	すみだ北斎美術館	令和3年2月9日(火)～4月4日(日)	「筆魂 線の引力・色の魔力 —又兵衛から北斎・国芳まで—」

(2) 画像データの貸出

令和元年度、画像貸出件数は、43 件

令和2年度、画像貸出件数は、61 件

6. 所蔵品の保存・修理

年度	作品名	作者	保存・修理内容
令和元年度 (2019年度)	金剛力士像		虫蝕部や腐朽部分の補強、後補の除去、欠損部の新調(継続終了)
	館名額	徐世昌	クリーニング、剥落止め
	重美 探幽縮図山水図巻	狩野探幽	全体に強い折れ、皺、本紙の欠損、シミ。解体修理を行い、上段下段ごとに装丁し、卷子2巻に分巻
	重文 石清水八幡曼茶羅図		軸右端の軸袋の浮き修理
	オークラウロ RUDALL, CARTE&CO, LTD LONDON		オーバーホール
	アルト・オークラウロ RUDALL, CARTE&CO, LTD LONDON		修理
令和2年度 (2020年度)	鍾馗図	葛飾戦斗	掛緒、金具、軸首外れの修理。(継続)
	刀剣全作品(50口)		手入れ
	能画(20点)	繁岡鑿一	マット装、中性紙保存箱の製作
	紫地棕櫚模様長絹		縫いほつれ、穴、折り皺や燃れ、後補による模様ずれの修理
	紫地花入菱模様長絹		縫いほつれ、穴、折り皺や燃れ、後補による模様ずれの修理

1. 入場者数

年度	展覧会会期	展覧会名	開催日数	入場者数	一日平均	備考
令和元年度 (2019年度)	令和元年9月12日(木) ～11月17日(日)	大倉集古館リニューアル記念特別展 桃源郷展 一蕪村・呉春が夢見たもの— 開館記念 大倉集古館名品展	58日	16,036人	約276人	
	令和元年12月24日(火) ～令和2年1月26日(日)	新春特集展示 能と吉祥 寿 -Kotohogi-	26日	5,208人	約200人	
		計	84日	21,244人	約253人	

年度	展覧会会期	展覧会名	開催日数	入場者数	一日平均	備考
令和2年度 (2020年度)	令和2年4月4日(土) ～5月24日(日)【予定】	企画展 彩られた紙 一料紙装飾の世界—	—	—	—	中止
	令和2年6月27日(日) ～7月26日(日)	企画展 日本絵画の隠し玉 ～大倉コレクションの意外な一面～	26日	1,485人	約57人	期間短縮
	令和2年8月1日(土) ～9月27日(日)	企画展 1930ローマ展開催90年 近代日本画の華 ～ローマ開催日本美術展覧会を中心に～	50日	8,444人	約169人	
	令和2年10月3日(土) ～10月25日(日)	東京経済大学120周年記念展示 東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎	20日	1,904人	約95人	
	令和2年11月3日(火・祝) ～2021年3月21日(日)	特別展 海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～	85日	10,987人	約129人	途中休館、 延長
	令和3年2月2日(火) ～3月28日(日)【予定】	企画展 因州×備前 池田家の能面・能装束	—	—	—	中止
		計	181日	22,820人	約126人	

2. 施設概要

施設名：大倉集古館

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-3

電話：03-5575-5711

FAX：03-5575-5712

ウェブサイトアドレス：<https://www.shukokan.org/>

延床面積：1948.13㎡

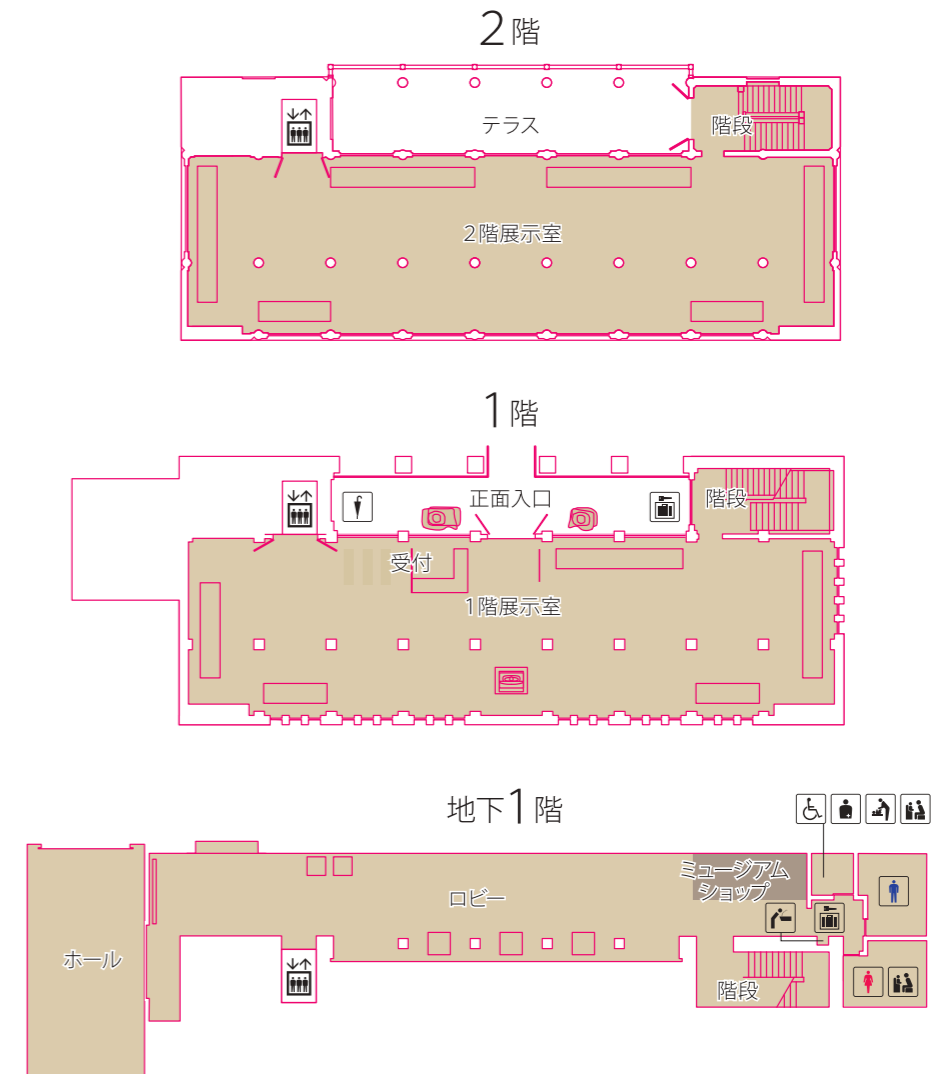
主体構造：地上RC造・地下RC造

階数：地上2階、地下1階

1階 展示室：奥行 9,090mm、幅 32,724mm、
天井高 4,545mm

2階 展示室：奥行 9,090mm、幅 32,724mm、
天井高 4,034mm

地階 ロビー等：奥行 5,000mm、幅 10,886mm、
天井高 3,400mm



3. 利用案内

■開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

■休館日：月曜日(休日の場合は翌平日)、展示替期間、年末年始

■入館料：一般：1,000円(特別展は1,300円)
 大学生・高校生 800円
 (特別展は1,000円) ※学生証を提示。
 中学生以下 無料
 ※同会期中のリピーターは200円引き
 (前回来館のチケット持参)
 ※20名様以上の団体は100円引き
 ※障がい者手帳、被爆者手帳をご提示の方と同伴者1名は無料

■アクセス：

- 東京メトロ南北線／六本木一丁目駅 中央改札口(泉ガーデン方面)より5分
- 東京メトロ日比谷線／神谷町駅 4b 出口より7分
- 東京メトロ日比谷線／虎ノ門ヒルズ駅 A1 または A2 出口より8分
- 東京メトロ銀座線・南北線／溜池山王駅 13 番出口より10分
- 東京メトロ銀座線／虎ノ門駅 3 番出口より10分

■The Okura Tokyo とのセット鑑賞券

- ・ランチセット鑑賞券 5,000円
- ・茶菓セット鑑賞券 2,500円



■ミュージアムパスポート

入会日から一年間、何度でも展覧会をご覧いただける会員証を発行。
 会員の方には、展覧会やイベント等のご案内を郵送。
 年会費 5,000円(税込み)、入会日から1年間



ミュージアムパスポートカード



4. 役員名簿(令和元～2年度)

役職	名前
評議員	大倉 昭彦
評議員	井手 章
評議員	平田 博資
評議員	安本 昌司
評議員	牟田 忠弘
評議員	高橋 智
評議員	池田 正己
評議員	大島 一宏
評議員	岩崎 民夫
理事長(代表理事)	村上 勝彦
理事	大倉 喜彦
理事	澁谷 文敏
理事	岩井 国立
理事	荻田 敏宏
理事	山内 隆司
理事	三澤 清利
理事	伊藤 隆男
理事	金井 克行
監事	朝倉 敏守
監事	清水 紘一郎
特別顧問	大崎 馨夫